

がん対策基本法と がん地域連携クリティカルパス

～がん診療ネットワーク構築と標準治療パス～

国際医療福祉総合研究所長
国際医療福祉大学大学院 教授
(株)医療福祉経営審査機構CEO
武藤正樹

国際医療福祉大学・高邦会グループの概要

平成7年栃木県大田原市に、日本初の保健・医療・福祉分野の総合大学として設立。看護師、理学療法士、作業療法士、言語聴覚士、視能訓練士、診療放射線技師、社会福祉士、介護福祉士、薬剤師等のコメディカルを育成している。

国際医療福祉大学



栃木県大田原

東京本部 (乃木坂)

総務部
人事部
企画部
医療管理部



大学院 医療福祉学研究所

大学院 医療福祉学研究所

修士課程: 保健医療学専攻、医療福祉経営専攻
臨床心理学専攻

博士課程: 保健医療学専攻

- 栃木本校のほかサテライトキャンパスも設置(東京・小田原・熱海・福岡・大川)
- 同時双方向遠隔授業
- 医療職のための本格的な生涯学習コース、「乃木坂スクール」開講

保健医療学部

看護学科、理学療法学科、作業療法学科、言語聴覚学科、視機能療法学科、放射線・情報科学科

医療福祉学部

医療経営管理学科、医療福祉学科

薬学部

薬学科

福岡リハビリテーション学部

(福岡県 大川キャンパス)

理学療法学科、作業療法学科、
言語聴覚学科(平成19年4月開設)

小田原保健医療学部

(神奈川県 小田原キャンパス)

看護学科、理学療法学科、作業療法学科

大学附属施設

(269床)



熱海病院

(291床)



三田病院

(206床)



国際医療福祉
大学病院

(300床)



塩谷病院



医療福祉大学三田病院

2005年旧東京専売病院より継承
医師数120名、290床、
平均在院日数10日
入院単価65、000点
東京都認定がん診療病院
DPC対象病院

今日の目次

- **パート 1**
 - **新たな地域医療計画と連携パス**
- **パート 2**
 - **がん対策基本法とがん連携パス**
- **パート 3**
 - **谷水班の紹介**
- **パート 4**
 - **5大がん＋前立腺がん連携パス事例**



パート 1
新たな地域医療計画と
地域連携クリティカルパス

2006年6月第5次医療法改正 地域医療計画の見直し



2008年4月より新たな医療計画がスタート

地域医療計画の見直し

疾病別・事業別の診療ネットワーク構想

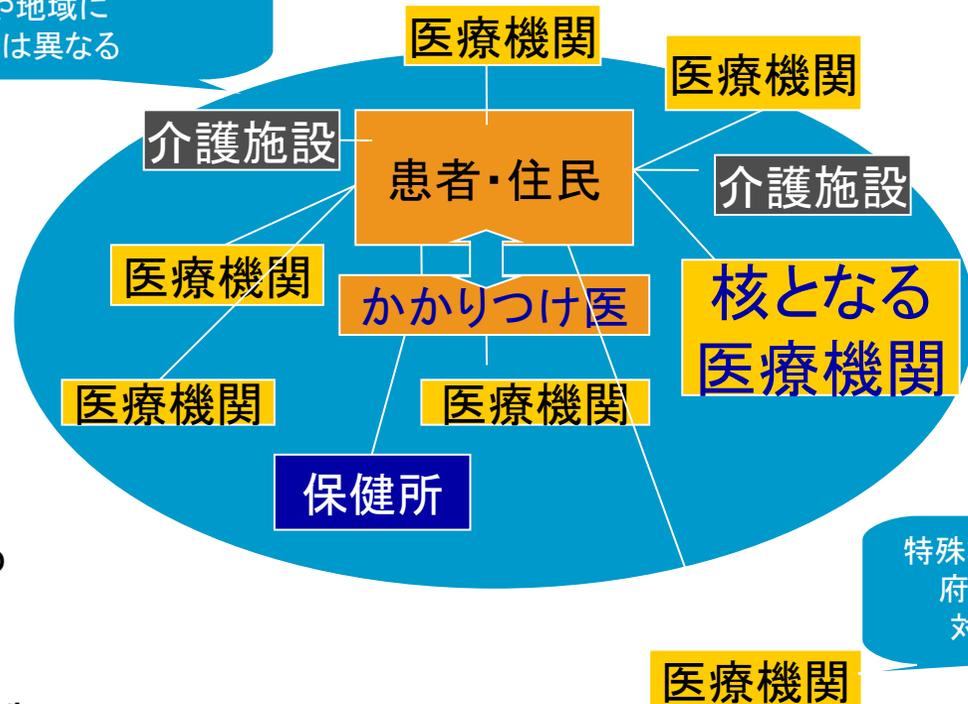
これまでの医療計画の考え方



日常医療圏
二次医療圏に近いが
疾患や地域に
よっては異なる

移行

日常医療圏と診療ネットワーク構想



現在の医療計画の問題点

- ①患者の実際の受療行動と異なる
- ②疾病動向を勘案していない
- ③地域の医療機能に関係なく

結果として大病院重視の階層構造

疾病別、事業別(がん、脳卒中、糖尿病、小児救急など)

4疾患5事業

- 4 疾病

- ①がん
- ②脳卒中
- ③急性心筋梗塞
- ④糖尿病

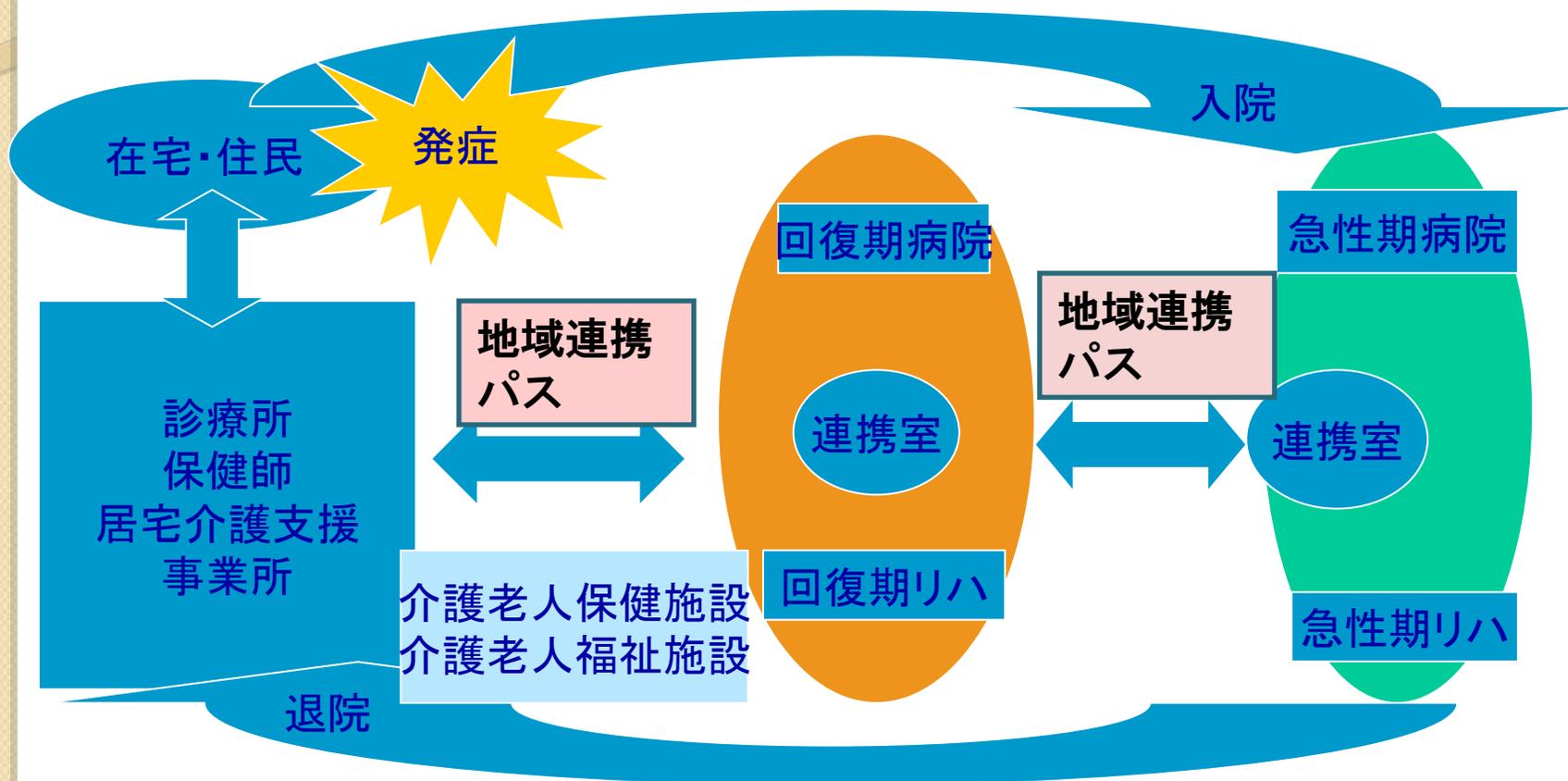
- 5事業

- ①救急医療
- ②災害医療
- ③へき地医療
- ④周産期医療
- ⑤小児医療

* 在宅医療

08年は脳卒中連携から！

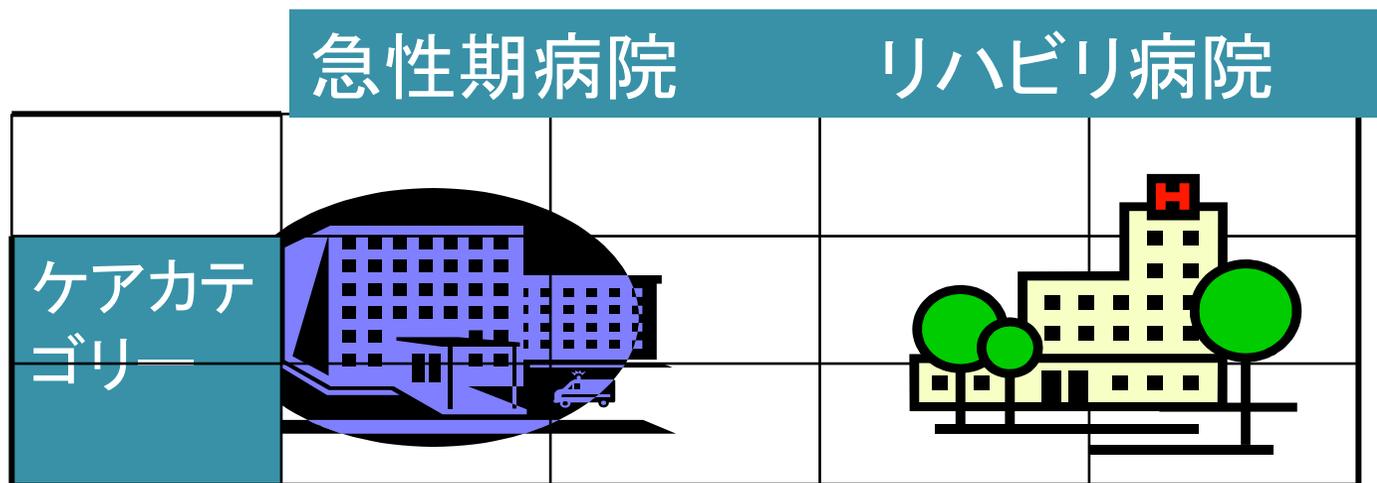
脳卒中連携と地域連携パスの流れ



地域連携クリティカルパスが連携ツールとして位置づけられた

地域連携クリティカルパス

- 急性期病院とリハビリ病院
と一緒に作るパス、使うパス



整形外科疾患や脳卒中で始まった

2006年4月診療報酬改定 地域連携パス（大腿骨頸部骨折）

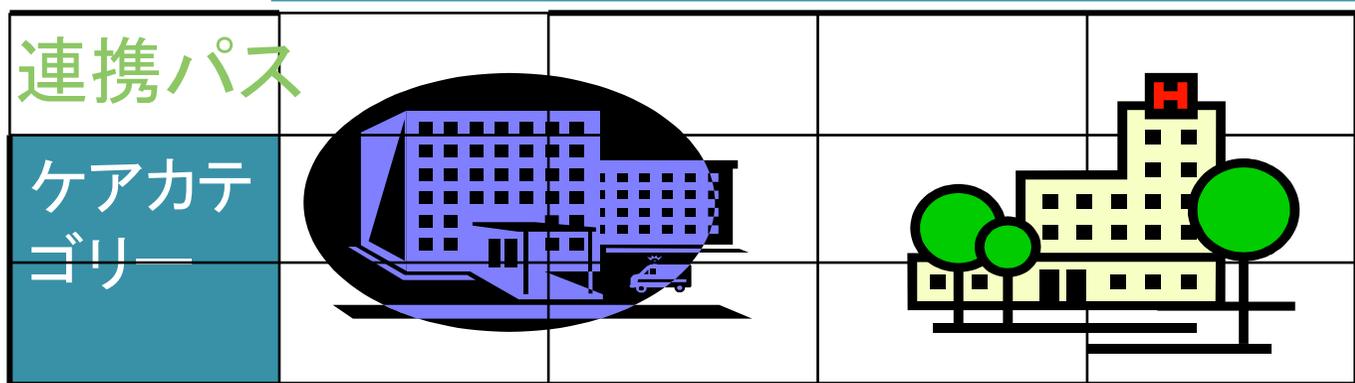
- 地域連携パスを相互に交わす
- 複数の医療機関
- 定期的会合



定期的な会合

急性期病院

リハビリ病院



有床診療所
でもOK

地域連携診療計画管理料
1500点

地域連携診療計画退院時指導料
1500点





地域連携クリティカルパス 加算のモデル

熊本市のシームレスケア研究会の
整形疾患における地域連携パス

大腿骨頸部骨折

シームレスケア研究会（熊本）

- 研究会参加施設

- K病院（急性期特定病院）、S病院（急性期特定病院）、C病院（急性期特定病院）
- N病院（回復期リハ）、S病院（回復期リハ）、K病院（回復期リハ）、T医院（有床診療所）、K医院（無床診療所）

- 月1回会合（医師、看護師、理学療法士他）

- 会場：持ち回り

- ネットワーク診療ガイドライン作成
- データベース作成
- 連携パスの作成・改訂



熊本医療センター整形外科
野村先生

シームレスケア研究会の経緯

- 研究会立ち上げ
 - 平成15年10月
 - 世話人会立ち上げ（6施設）
- 第1回研究会（平成15年11月）
 - 各施設のパス、手術適応、術式、後療法の提示
 - 診療ガイドラインの検討
 - 使用中の連携パスの提示
- 第2回（平成15年12月）
 - 診療ガイドライン案作成
 - 研究会連携パス
 - データベース案の検討
- 第3回（平成16年1月）
 - 連携パスの検討、連携パス
 - データベースの電子化の検討
 - 目標設定：4月からの連携パス運用開始
- 第4回（平成16年2月）
 - 連携パスの検討、電子化案の検討
 - 患者用連携パス案の検討
- 第5回（平成16年3月）
 - 2施設加わる
 - 連携パス試用結果検討
- 第6回（平成16年4月）
 - 第6回研究会
 - 連携パス使用実績、問題点の検討
- 以後毎月1回研究会を開催

国立病院機構熊本医療センター連携パス

〇〇〇〇 病院 → 〇〇〇〇 病院 〇〇〇〇 様 〇 歳 【大腿骨頸部内側骨折用連携パス】案 医療者用

診断名: (右・左) 大腿骨頸部骨折 手術: 平成〇年〇月〇日 人工骨頭置換術施行 退院後: 自宅・施設()

受傷前歩行能力: 車椅子・伝い歩行・歩行器・シルバーカー・松葉杖・杖(全介助・一部介助・監視・自立)

達成目標: 移動能力	車椅子坐位	平行棒内歩行	歩行器歩行	杖歩行	階段昇降	屋外歩行	()
訓練開始日	〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇	〇/〇	自・監・介

経過	入院日	手術日	術後1日	術後2日	術後3日~6日	術後7日	術後2週	術後3週	術後4週	術後5週	術後6週	術後7週	退院後 1週以内
排泄	尿道カテーテル留置	尿道カテーテル抜去	病棟内トイレ		病棟内トイレ		病棟内トイレ		病棟内トイレ		病棟内トイレ		自・監・介
清潔	清拭		創チエツ		シャワー浴可		入浴						自・監・介
セルフ	【荷重制限有無】		急性期病院		転院基準(術後合併症なし)		リハビリ病院		リハビリ病院		リハビリ病院		自・監・介
薬剤	持参薬確認	術後1~2日まで 抗生剤点滴		疼痛時; 坐薬・飲薬 (朝・訓練前・昼・夜 (常時・時々)		疼痛時; 坐薬・飲薬 (朝・訓練前・昼・夜 (常時・時々)						疼痛 有・無	
検査	×線(2R) 採血	×線(2R) 採血			×線(2R) 採血		×線(2R) 採血					×線(2R) 採血	有・無
処置	鋼線牽引 有・無	ドレーン抜去 創処置	創処置(1回/2日)		創処置 抜糸		処置なし						有・無
食事	常食 特食()	腹鳴音確認後飲水可 常食 特食()											有・無
教育	入院時OR NsOR	床上動作の指導	家屋調査説明有 介護保険説明有		入院時OR 家屋訪問調査〇/〇		家屋改修指導〇/〇				試験外泊 退院時OR		有・無
退院時情報	問題行動: 有・無 痴呆: 有・無・疑い 痛み: 有・無(部位:) 意欲: 有・無・どちらとも言えない		可動域: 股関節屈曲〇度、外転〇度		問題行動: 有・無 痴呆: 有・無・疑い 痛み: 有・無(部位:) 薬: 飲薬・坐薬(回/日)		可動域: 股関節屈曲〇度、外転〇度 筋力: 中殿筋〇、大腿四頭筋〇 要介護度: 〇 サービス: 有・無()						有・無

急性期病院

転院基準(術後合併症なし)

リハビリ病院

退院基準(受傷前歩行能力獲得)

【コメント】

平成 年 月 日 〇〇病院 リハビリテーション科 術後1~2週間 平成 年 月 日 〇〇病院 人工骨頭 術後8週間 骨接合 術後10週間

* 直院を転院・退院された時は、お手数ですが当院へ情報提供をお願いします。

人工骨頭置換術を受けられる方へ

患者様用パス

骨接合術を受けられる方へ

『治療の流れ』 手術 → リハビリテーション → 退院

* 手術後に特別な合併症が無ければ1~2週で転院となります。転院後は退院に向けてより専門的なリハビリを継続していきます。

経過	入院...手術...	転院:術後1~2週	術後3週...	...	術後7週
リハビリ	関節を動かす訓練 筋力訓練 歩行訓練				
入浴	キズが良ければシャワー浴から開始。				
検査		X線検査 血液検査			X線検査 血液検査
教育	自宅での生活が目標の方 (家屋訪問調査 家屋改修指導 試験外泊)				
	入院時指導				

『リハビリ』

目標:(車椅子・起立・伝い歩き・歩行器・杖・独歩)

歩行訓練進行の目安



歩くとき膝がグラグラしない。
肩の力を抜いて歩ける。
平行棒内を一人で1往復以上歩ける。

平行棒内を杖だけで歩ける。 階段昇降ができる。
片手で平行棒内を歩ける。

『日常生活、生活の場』

目標:(自宅・施設)

* 実生活そのものがリハビリとなります。
* リハビリスタッフと一緒に練習してきた事を生活の場を通して実践していきましょう。

- 1) 布団の上、畳の縁、廊下、浴室などは転倒し易いので注意しましょう。
- 2) 階段の昇りは良い方の足から降り方は悪い方の足から一段ずつ始めた方が楽です。

3) 脱臼し易い姿勢に注意!

【右写真を参照】



家屋改修(自宅での生活が目標の方)

- * 家屋改修の内容は各個人個人、状況によって異なります。リハビリスタッフにご相談ください。
- * 家屋環境のチェックが必要となります。
- * 家屋環境のチェックが必要となります。

家屋改修には介護保険を利用する事も出来ます。詳しくはリハビリ科スタッフへ

『治療の流れ』 手術 → リハビリテーション → 退院

* 手術後に特別な合併症が無ければ1~2週で転院となります。転院後は退院に向けてより専門的なリハビリを継続していきます。

経過	入院...手術...	転院:術後1~2週	術後3週...	...	術後10週
リハビリ	関節を動かす訓練				
検査		X線検査 血液検査			X線検査 血液検査
教育	自宅での生活が目標の方 (家屋訪問調査 家屋改修指導 試験外泊)				
	入院時指導				

大腿骨頸部骨折に対し骨接合術を受けられる方へ

() 様 担当医 () 担当看護師 () 担当理学療法士 ()

経過	手術当日	術後1日	術後2日	術後3~4日	術後5日 ~ 3週	X線検査 血液検査
食	□食事は夕食まで □飲水は22時まで	□朝食後、お腹の動く音を確認後、飲水できます その後、食卓出来ます	□排便後、お腹の動く音を 確認後、飲水できます	□排便後、お腹の動く音を 確認後、飲水できます	□排便後、お腹の動く音を 確認後、飲水できます	
着	□着替え、お腹の動く音を 確認後、飲水できます	□着替え、お腹の動く音を 確認後、飲水できます	□着替え、お腹の動く音を 確認後、飲水できます	□着替え、お腹の動く音を 確認後、飲水できます	□着替え、お腹の動く音を 確認後、飲水できます	
歩	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	
リ	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	
ハ	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	
ビ	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	
リ	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	□歩みに応じて訓練で 引っぱります (痛くないように)	
排	□排便の確認をします	□排便の確認をします	□排便の確認をします	□排便の確認をします	□排便の確認をします	
結	□必要に応じて毛を 剃ります	□必要に応じて毛を 剃ります	□必要に応じて毛を 剃ります	□必要に応じて毛を 剃ります	□必要に応じて毛を 剃ります	
保	□可能であれば 入浴できます	□可能であれば 入浴できます	□可能であれば 入浴できます	□可能であれば 入浴できます	□可能であれば 入浴できます	
内	□持参薬の確認 をします	□持参薬の確認 をします	□持参薬の確認 をします	□持参薬の確認 をします	□持参薬の確認 をします	
輸	□輸液の注ぎの 確認をします	□輸液の注ぎの 確認をします	□輸液の注ぎの 確認をします	□輸液の注ぎの 確認をします	□輸液の注ぎの 確認をします	
洗	□手術部位の消毒 を行います	□手術部位の消毒 を行います	□手術部位の消毒 を行います	□手術部位の消毒 を行います	□手術部位の消毒 を行います	
注	□必要に応じて鎮痛剤 (坐薬) 使用					
検	□必要時に血液検査、 他科受診があります	□必要時に血液検査、 他科受診があります	□必要時に血液検査、 他科受診があります	□必要時に血液検査、 他科受診があります	□必要時に血液検査、 他科受診があります	
監	□入院時説明 ・手術前説明 ・麻酔科医師診察 ・手術室看護師説明	□入院時説明 ・手術前説明 ・麻酔科医師診察 ・手術室看護師説明	□入院時説明 ・手術前説明 ・麻酔科医師診察 ・手術室看護師説明	□入院時説明 ・手術前説明 ・麻酔科医師診察 ・手術室看護師説明	□入院時説明 ・手術前説明 ・麻酔科医師診察 ・手術室看護師説明	

* 術後合併症がなく、受け入れ可能な施設があれば、転院となる場合があります。

国立熊本病院 整形外科

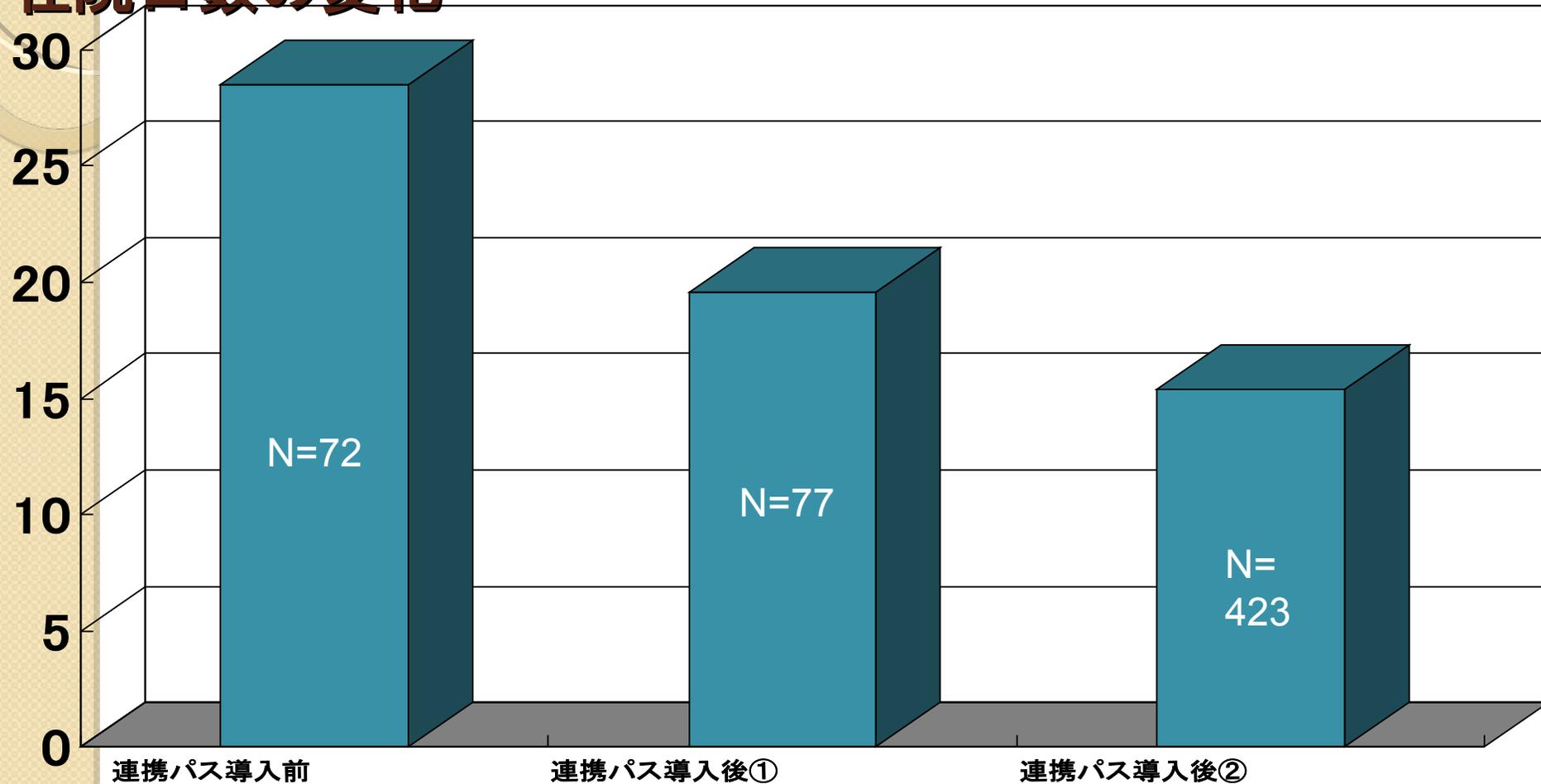
* 家屋環境のチェックが必要となります。

家屋改修には介護保険を利用する事も出来ます。詳しくはリハビリ科スタッフへ

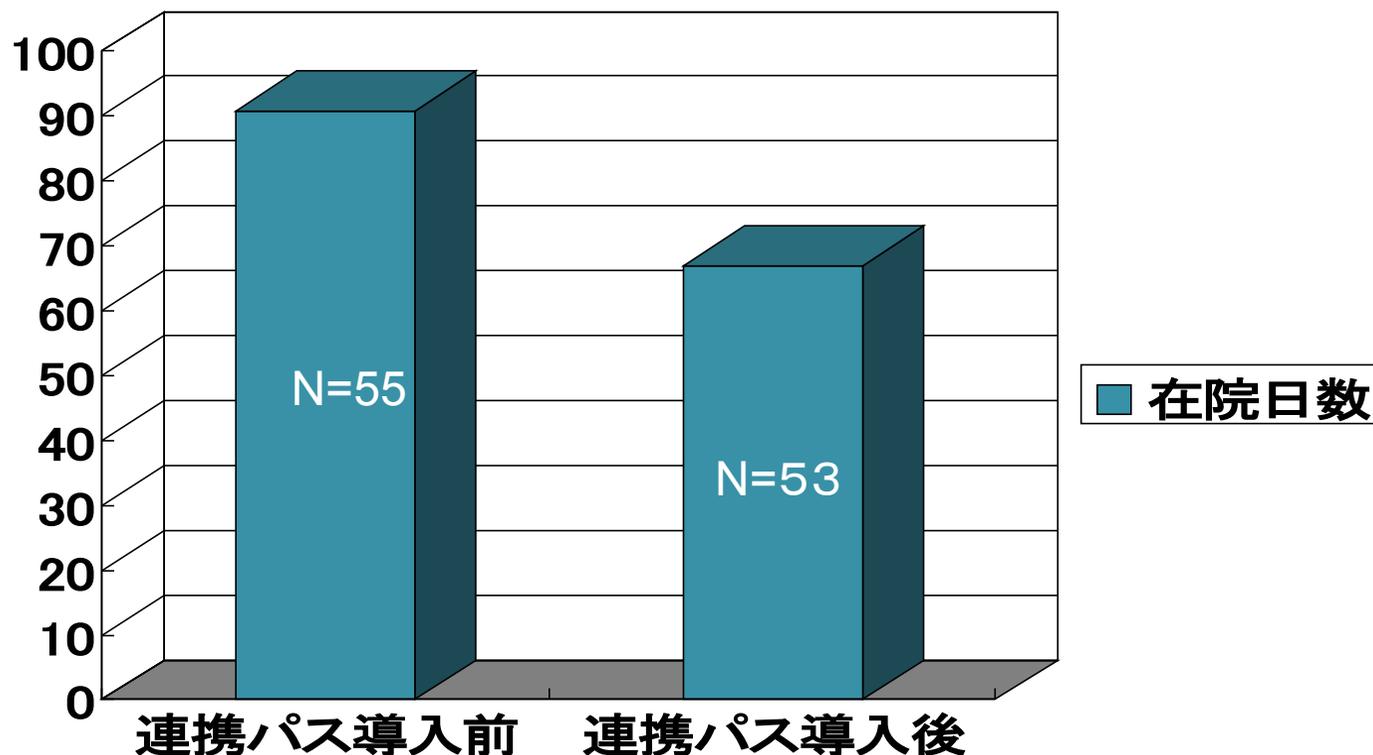
地域連携クリティカルパスの効果

- **患者家族の転院不安の解消**
 - 急性期病院から回復期リハビリテーション施設への転院に対する患者・家族の不安・不満の解消が図られた
- **診療内容に関する病院間の説明の不一致の解消**
 - 診療内容に関する医療機関間での説明の不一致の解消が図られた
- **診療目標やプロセスの共有化**
 - 診療の目標やプロセスを医療機関間で共有することにより、より効果的で効率的な医療サービスの提供が行われた
- **平均在院日数の短縮化**
 - 急性期・回復期を通じての平均在院日数の短縮が図られた
- **電子化により情報共有とパス見直しの促進**
 - 電子化されたデータベースを作成したことにより、容易に目標達成状況等の分析を行うことが可能となり、連携パスの見直しを通じて、連携医療の質と効率の向上につなげていくことができるようになった。

連携パス(大腿骨頸部骨折) 導入による 在院日数の変化



地域連携クリティカルパスの連携先の リハビリ病院の在院日数変化





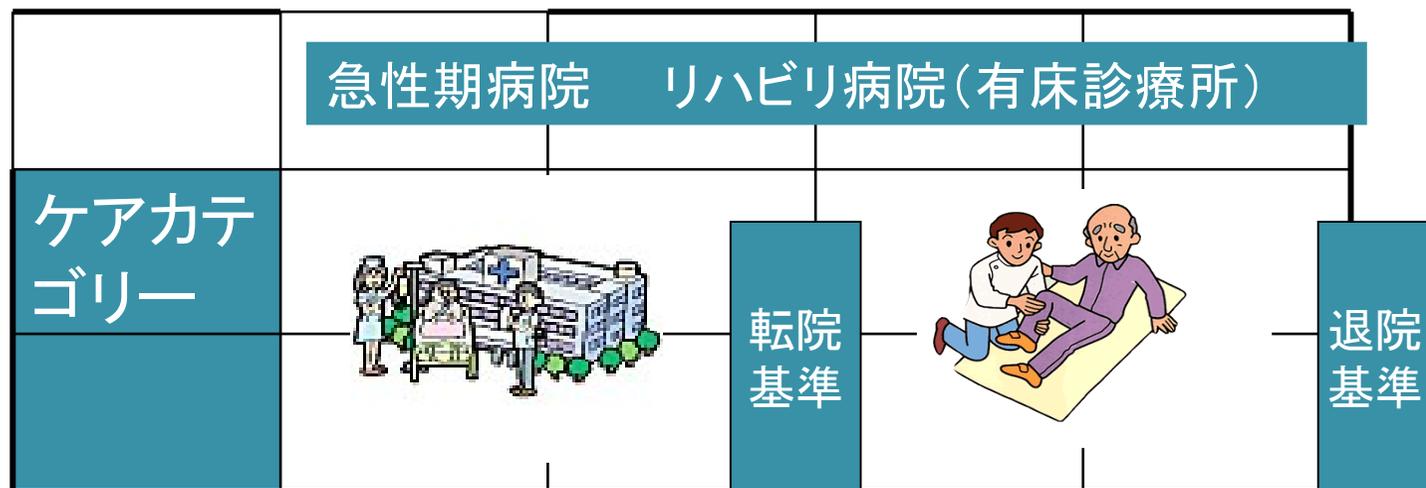
脳卒中の連携パス

08年診療報酬改定
脳卒中の地域連携パスが導入

脳卒中地域連携クリティカルパス (08年診療報酬改定)

- 算定要件

- 医療計画に記載されている病院又は有床診療所であること
- 退院基準、転院基準及び退院時日常生活機能評価を明記



地域連携診療計画管理料
900点

地域連携診療計画退院時指導料
600点

地域連携診療計画書

説明日 年 月 日
患者氏名 病名

月日	/	/	/		/	/		/
経過(日または週単位)	1日目 入院日	2日目	3日目		〇日	1日目	2日目	〇日 退院日
達成目標					転院日			(退院基準)
治療 薬剤(点滴・内服)					転院基準			
処置 検査								
安静度・リハビリ (OT/PTの指導を含む)								
食事(栄養)								
清潔・排泄 患者様及びご家族への説明								
退院時情報	退院時患者状態 病院名 平成〇年〇月〇日 主 治医				転院時患者状態 病院名 平成〇年〇月〇日 主治医			退院時の日常生活機能 評価合計点 〇点

脳卒中地域連携クリティカルパスの 東京都内の事例

メトロポリタン・ストローク・ネットワーク



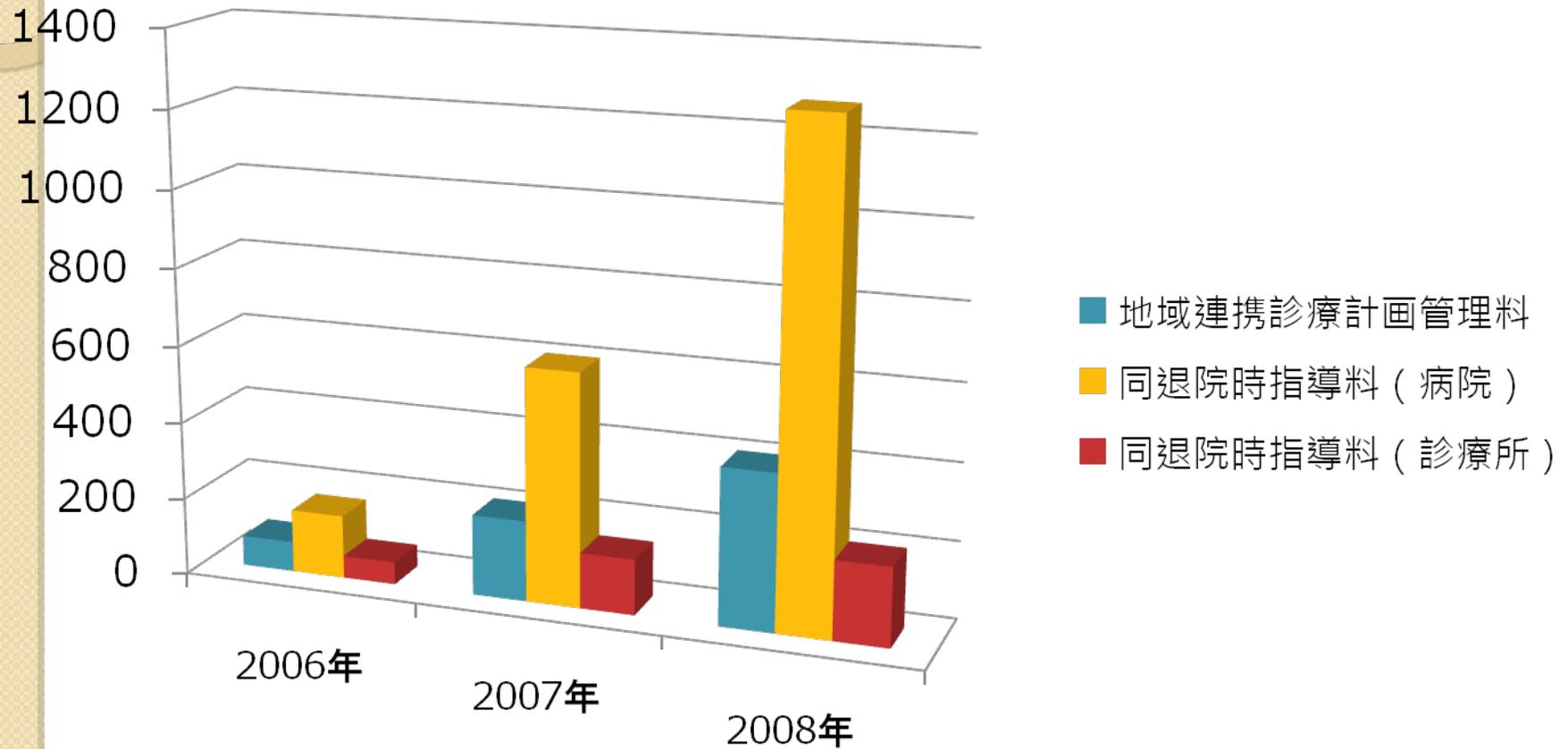
慈恵医大リハビリテーション医学講座
安保雅博教授

東京都内近郊の脳卒中地域連携ネットワーク構築にむけて



(222)施設別)

地域連携クリティカルパスの増加





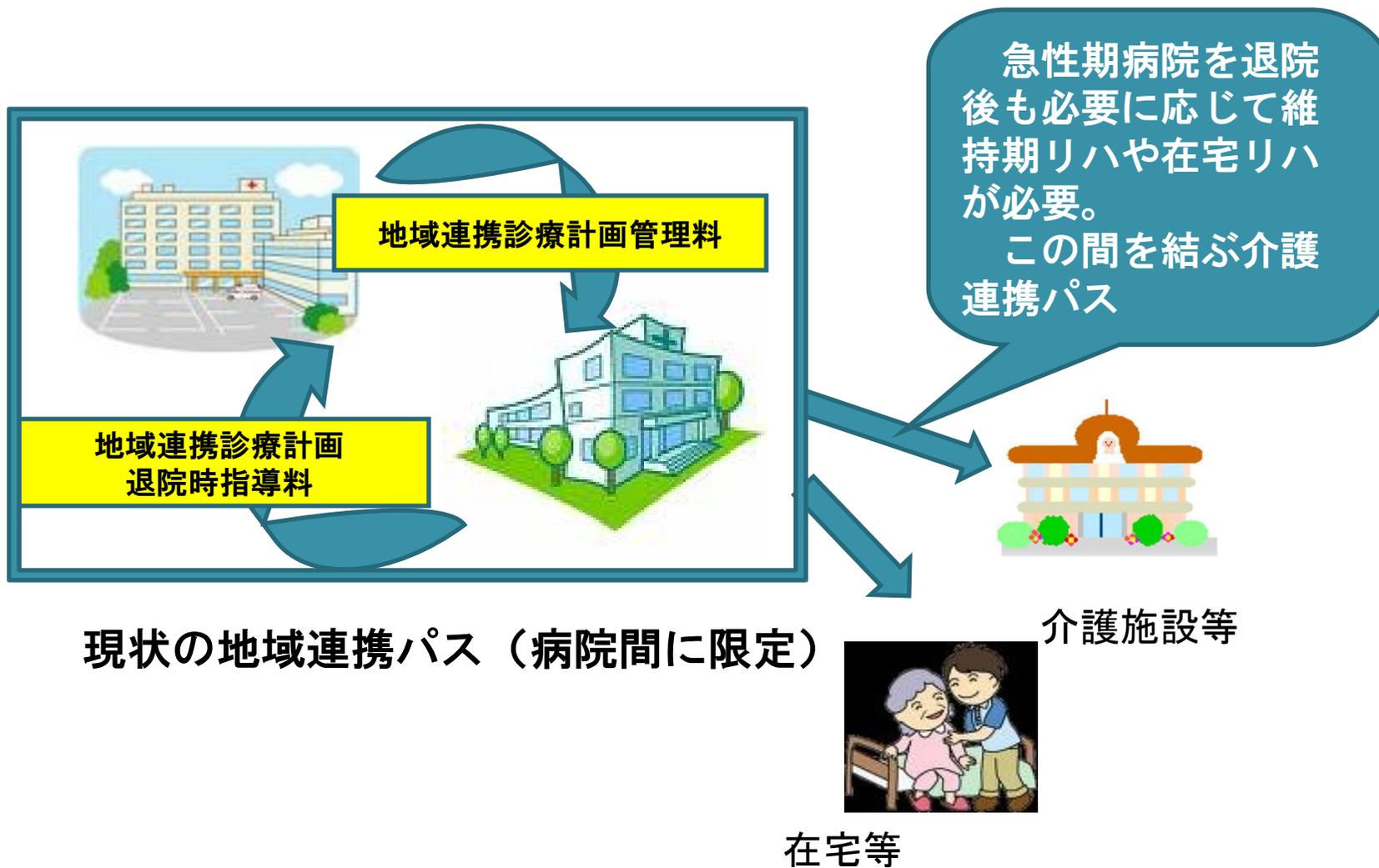
2010年診療報酬改定

地域連携クリティカルパス関連項目

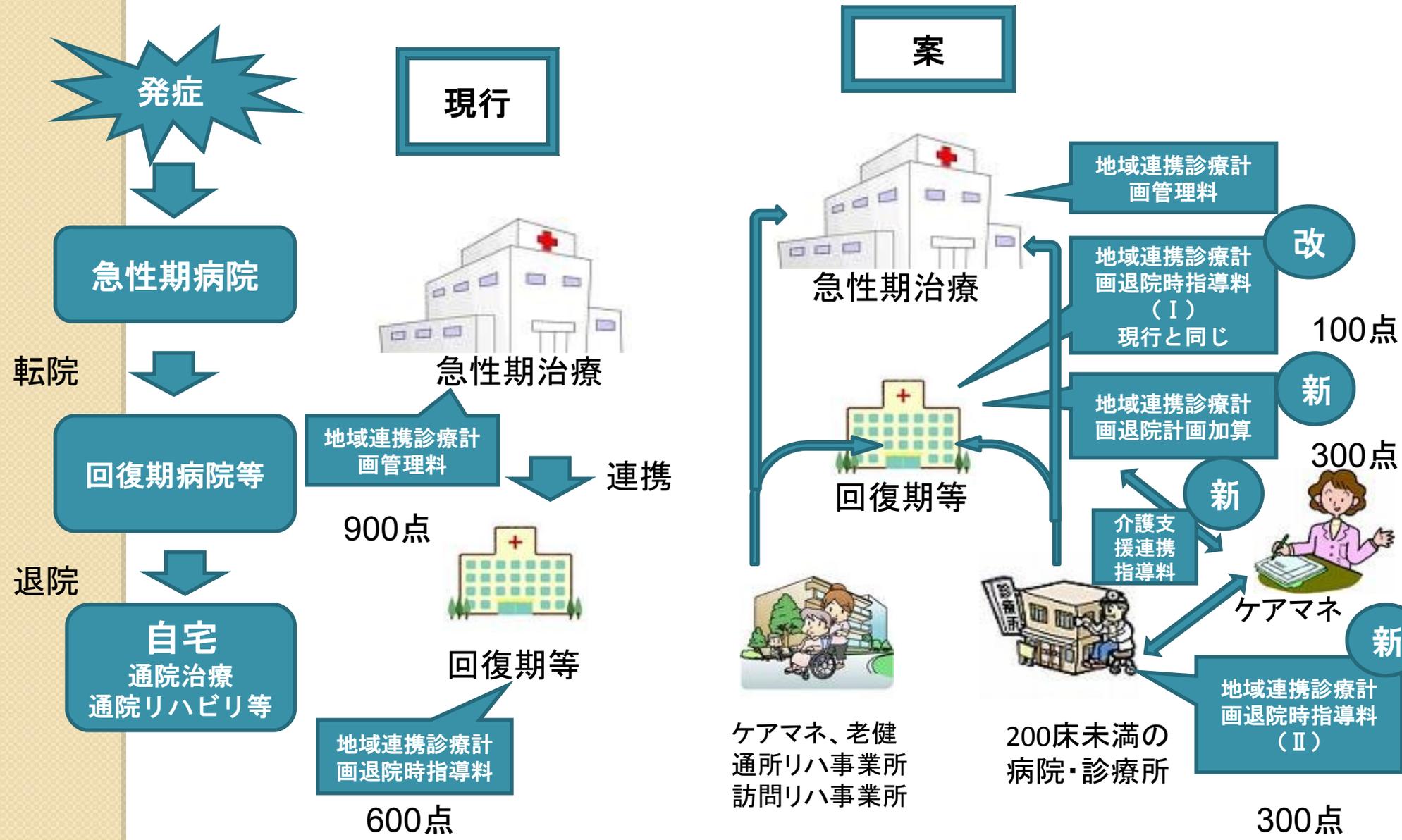
①施設拡大

②疾病拡大（がんに拡大）

①地域連携パスの施設拡大



大腿骨頸部骨折・脳卒中に係る医療機関等の連携の評価





パート 2

がん対策基本法とがん連携パス

切れ目のないがん医療連携を目指して

がん対策基本法（2006年6月）

● がん対策基本法

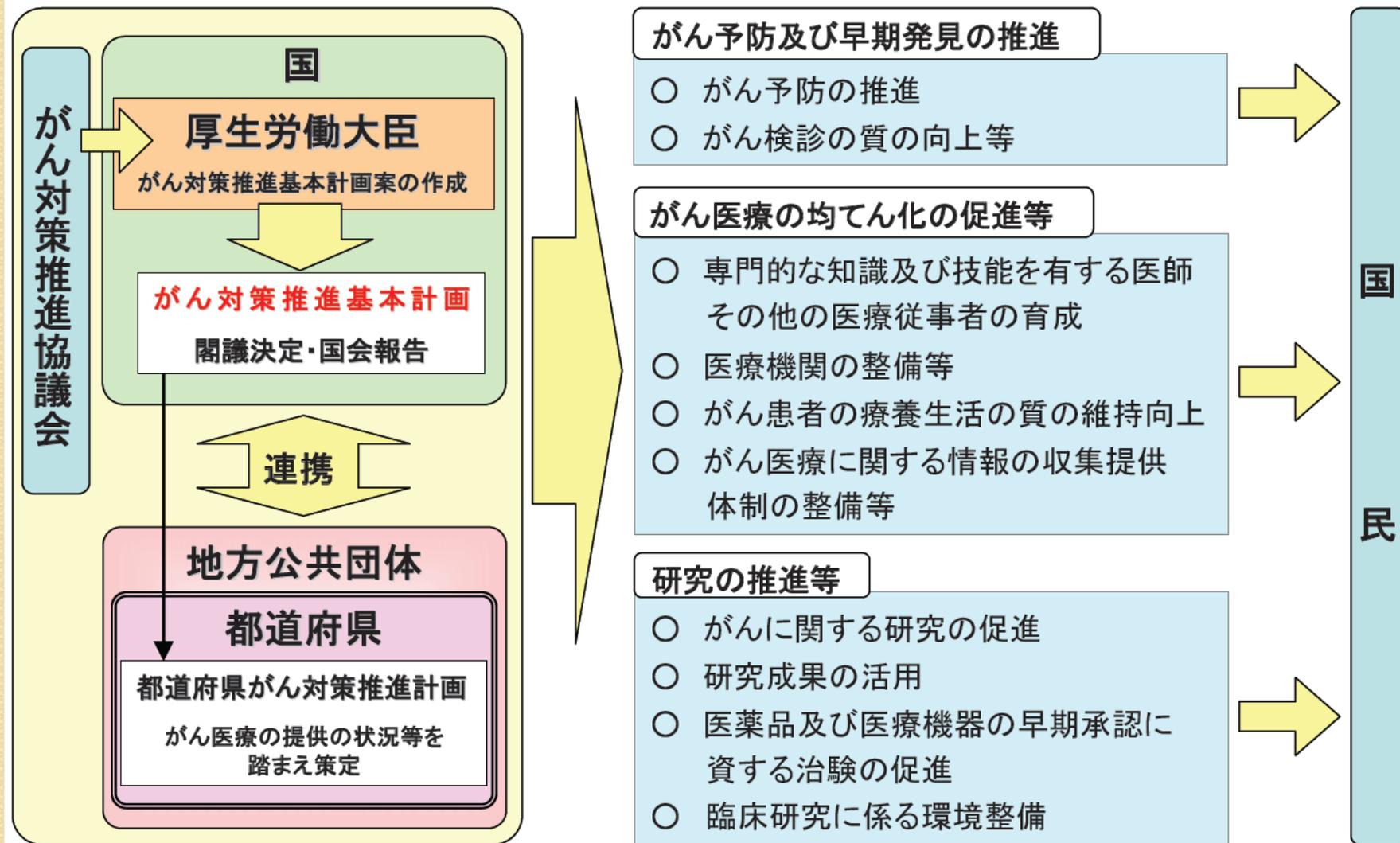
- がん対策のため、国、自治体の責務を明確にして、厚生労働省にがん対策推進協議会を設置することを定めた法律
- 当初、与党自民党と野党民主党の間で調整が手間取り成立が危ぶまれていた
- 山本孝史議員の自らのがんを告白して行った質問により与野党一致して法案が成立した
- 米国では1971年ニクソン政権時にナショナルキャンサーアクトが制定



山本孝史民主党参議院議員
58歳で胸腺がんのため亡くなる

がん対策基本法

がん対策を総合的かつ計画的に推進



がん対策推進基本計画

- 「がん対策推進基本計画」
 - 2007年6月閣議決定
 - 10年以内にがん死亡率20%減少
 - 5年以内にがん検診受診率50%以上を目指す
 - 5年以内（2011年10月まで）にすべてのがん診療連携拠点病院で
5大がん（胃、大腸、肺、乳、肝がん）
の地域連携クリティカルパスを整備する

がん診療連携拠点病院制度 47都道府県（351カ所）※H20年2月現在

厚生労働省

協力・支援

都道府県

国立がんセンター

がん対策情報センター



< 拠点病院の役割 >

- 専門的ながん医療の提供等
- 地域のがん医療連携体制の構築
- 情報提供、相談支援の実施

研修

地域がん診療連携拠点病院
相談支援センター

地域連携パス

情報
提供

症例
相談

地域の医療機関
(かかりつけ医、在宅療養支援センター等)

がん医療の
均てん化

診療支援

地域がん診療連携拠点病院
相談支援センター

研修

地域連携パス

診療
支援

地域がん診療連携拠点病院
相談支援センター

情報
提供

研修

地域連携パス

がん医療の均てん化

大腸がん・直腸がんの化学療法
肺がんの化学療法

DPCデータ分析概要

データ期間: 2008年7～12月

対象症例: 大腸の悪性腫瘍 (MDC6: 060035) の手術なし症例

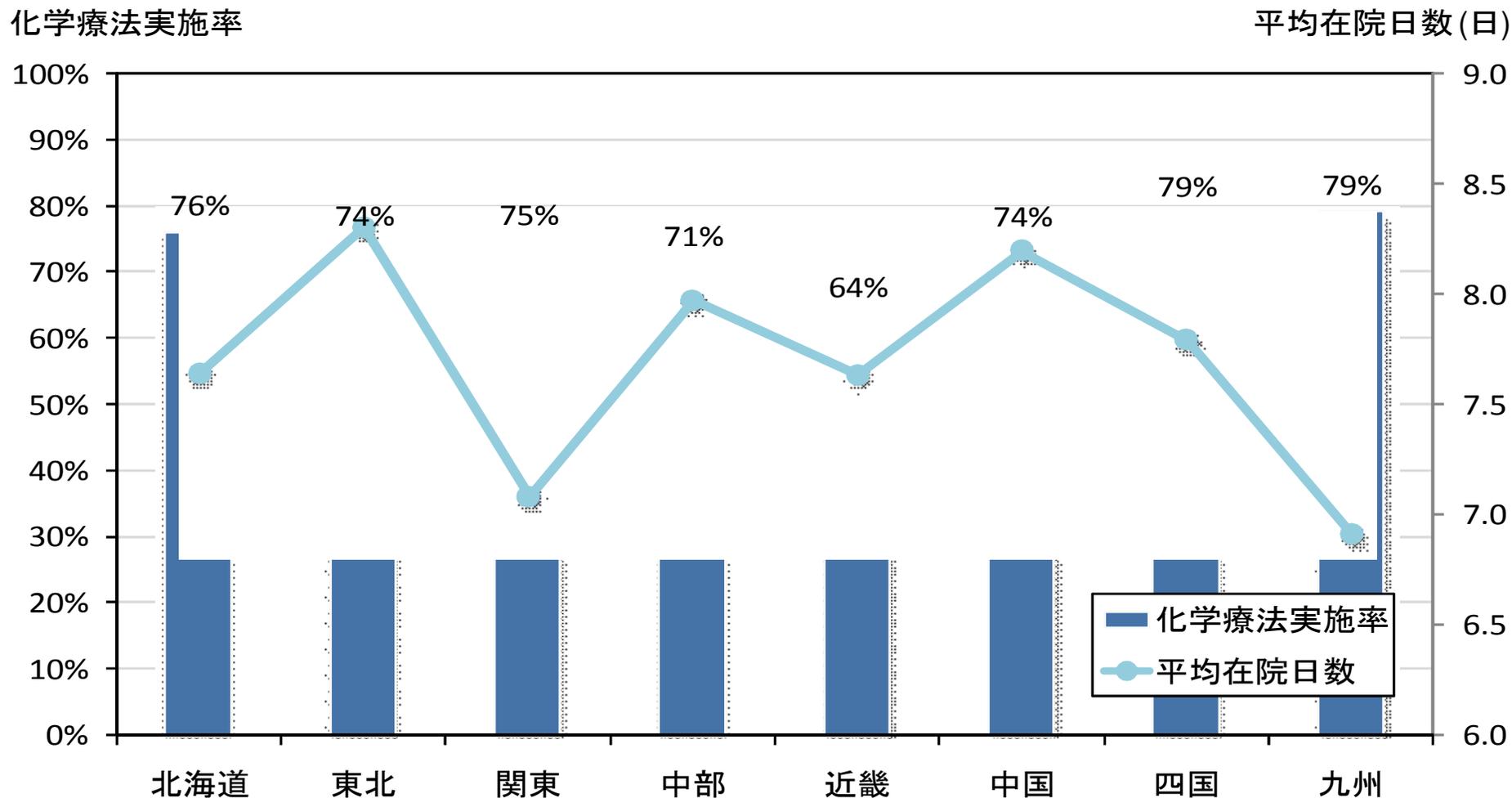
直腸肛門の悪性腫瘍 (MDC6: 060040) の手術なし症例

girasol 参加病院数

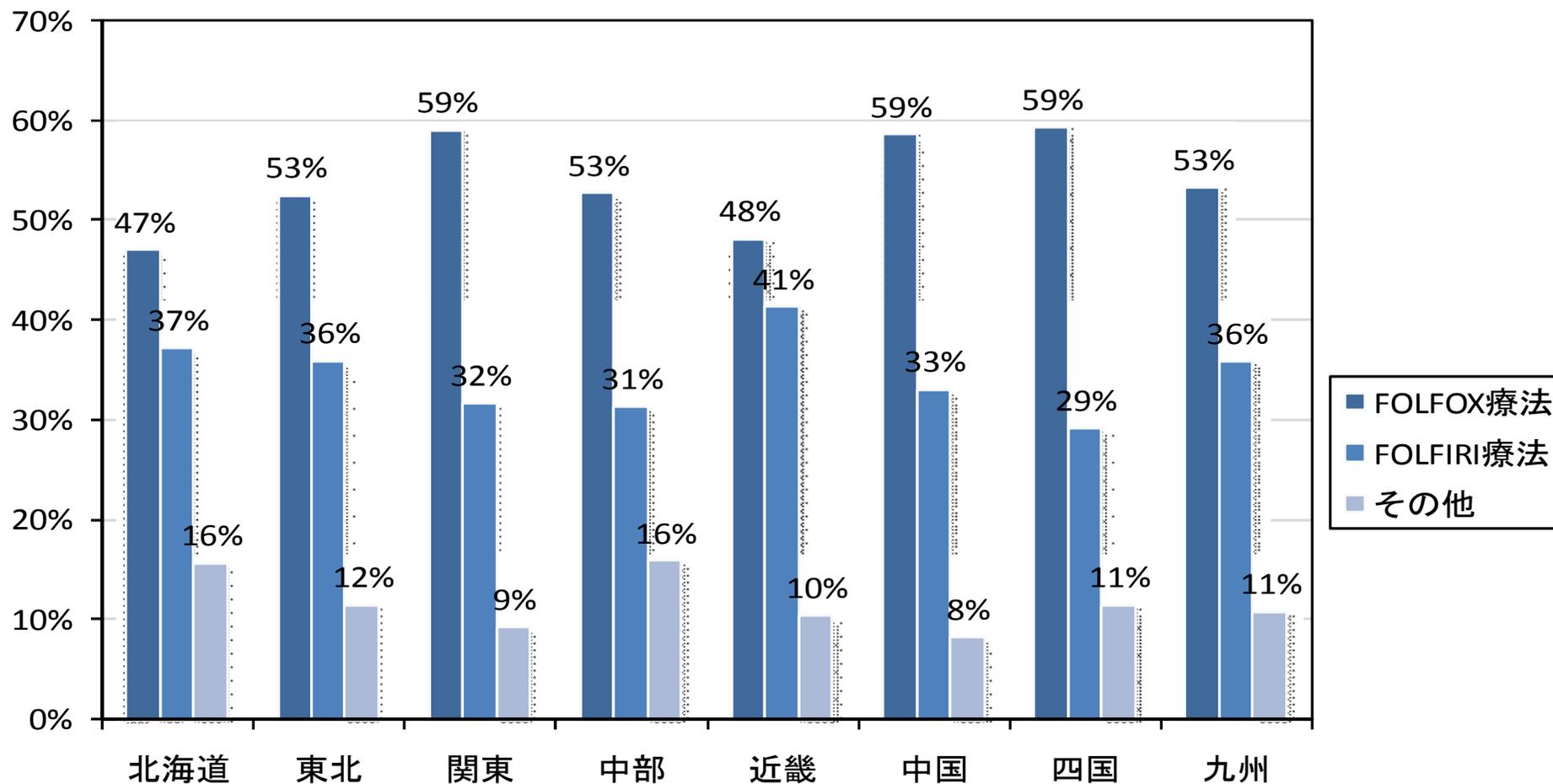
地方	DPC関連 病院数	girasol参加 病院数	girasol カバー率	がん診療連携 拠点病院数	girasol参加 がん診療連携 拠点病院数	girasol カバー率
北海道	96	20	21%	20	6	30%
東北	101	51	50%	43	25	58%
関東	388	129	33%	76	25	33%
中部	240	127	53%	69	40	58%
近畿	303	109	36%	60	34	57%
中国	106	42	40%	35	14	40%
四国	63	23	37%	18	11	61%
九州	262	86	33%	54	24	44%
総計	1,559	587	38%	375	179	48%

(株)メディカルアーキテクト作成

大腸・直腸手術なし症例における化学療法の地域別実施率（DPC 関連病院）

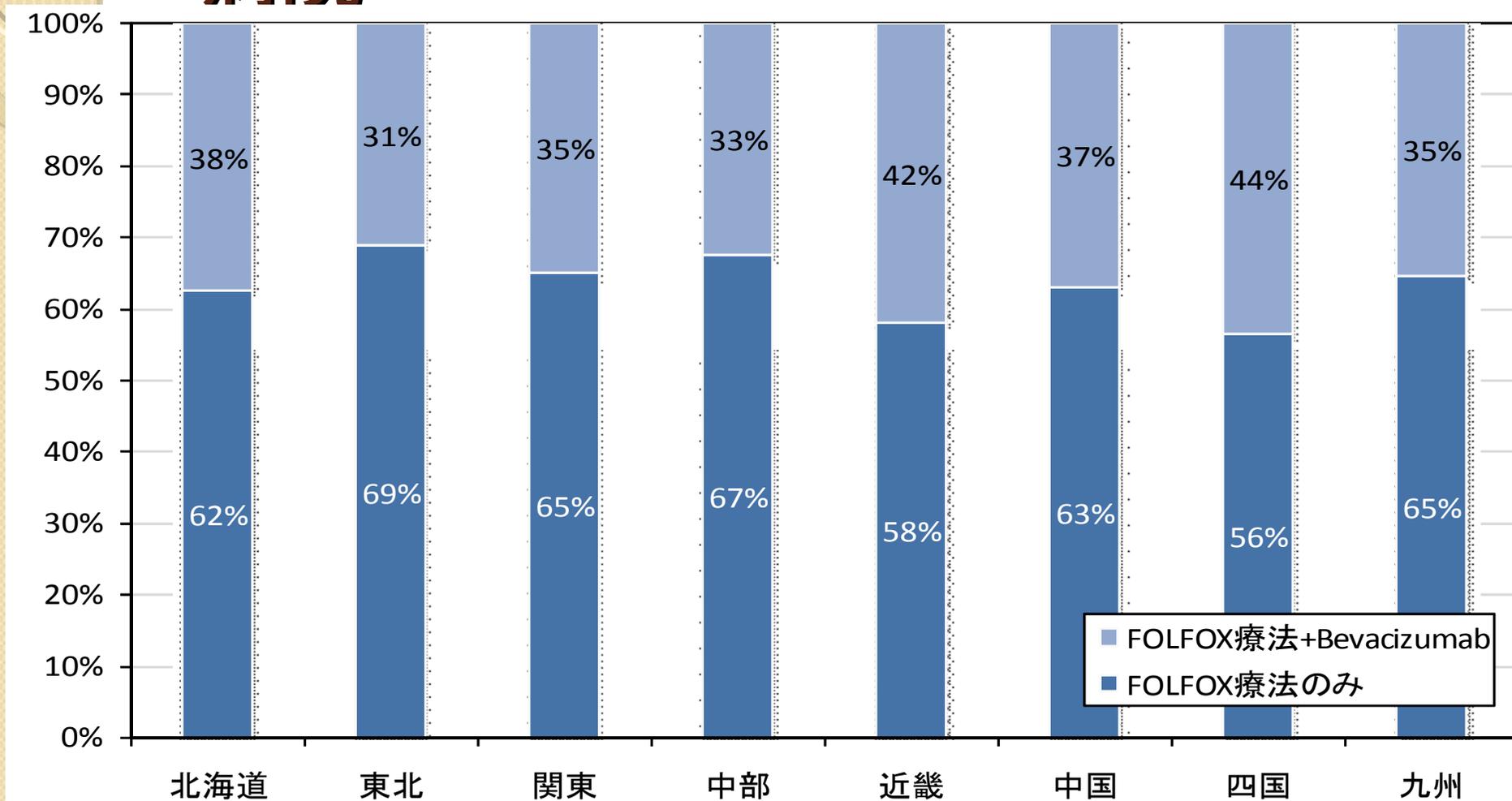


化学療法レジメン実施状況 / DPC 関連病院

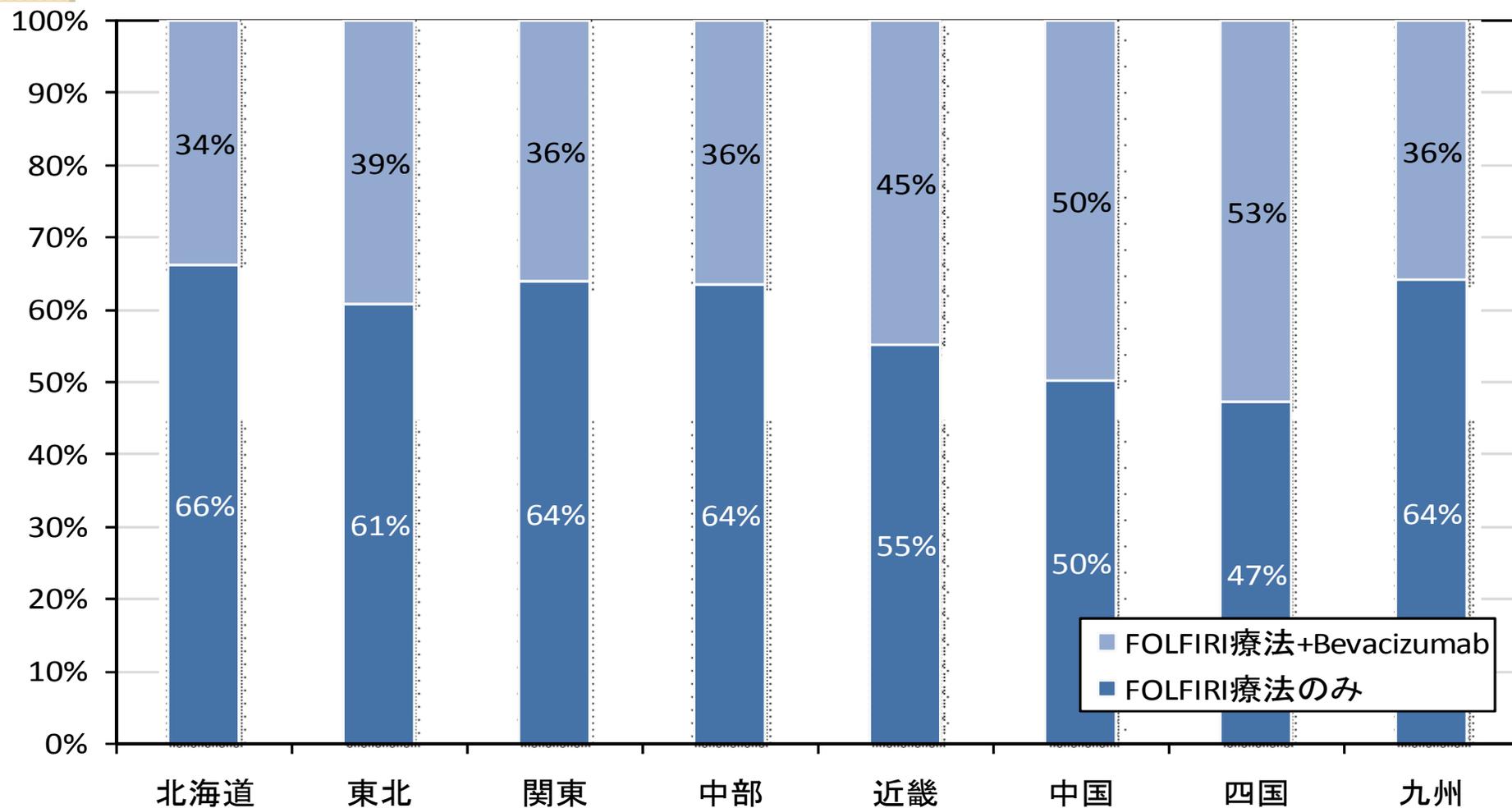


注: FOLFOX 療法、FOLFIRI 療法共に Bevacizumab 投与症例を含む

FOLFOX 療法実施状況 / DPC 関連 病院

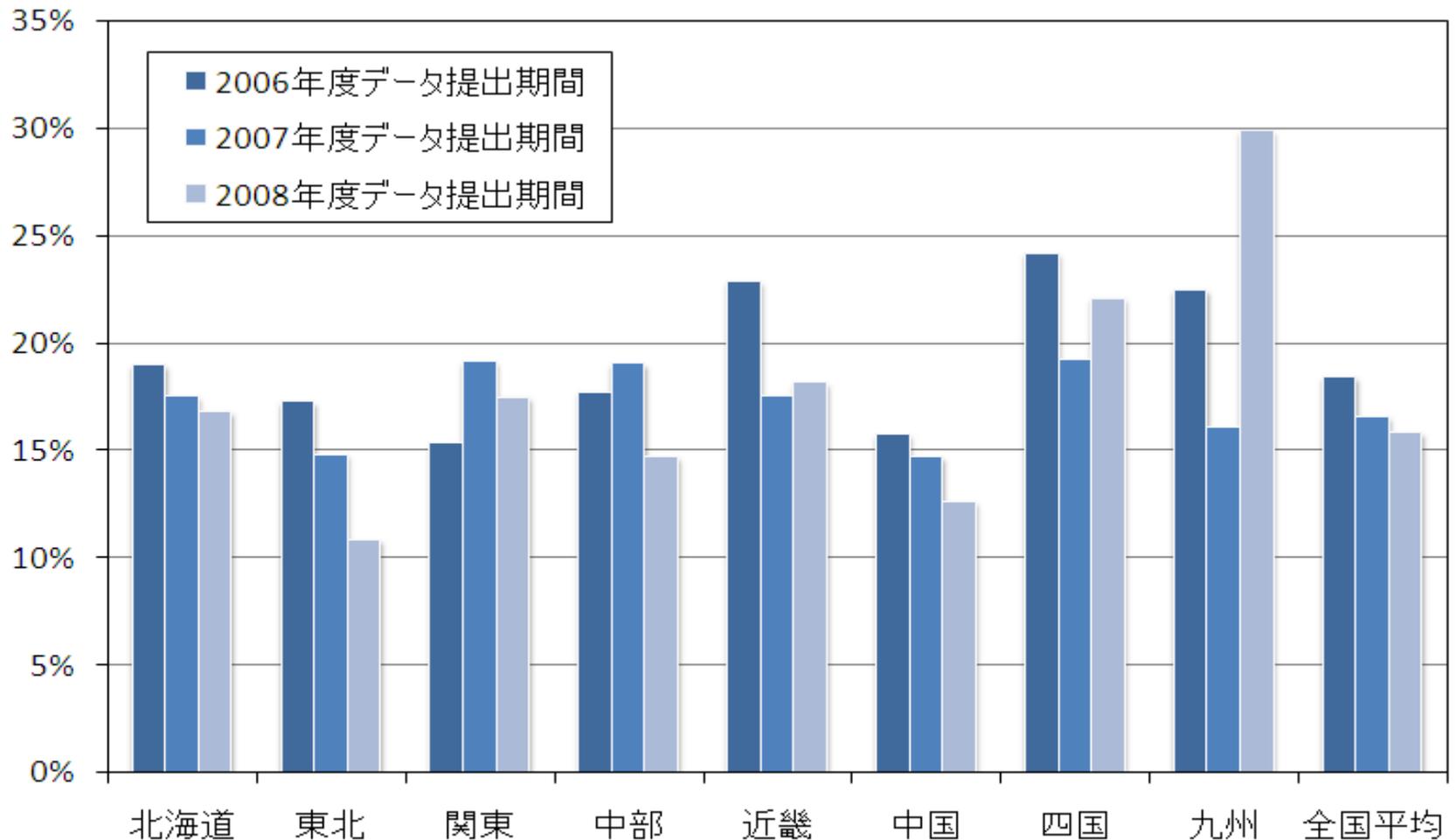


FOLFIRI 療法実施状況 / DPC 関連 病院



肺がん化学療法症例数に占める Carboplatin + Paclitaxel 投与状況

肺がん化学療法実施症例数に占める
Carboplatin + Paclitaxel 投与症例数の比率



パート 3 谷水班の紹介



厚生労働科学研究

全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域
連携クリティカルパスモデルの開発

(H20-がん臨床-一般-002)

全国のがん診療連携拠点病院において活用が可能な地域連携 クリティカルパスモデルの開発 (H20-がん臨床-一般-002)

研究者氏名

谷水正人(研究代表者)

池垣淳一

河村進

佐藤靖郎

住友正幸

田城孝雄

藤也寸志

梨本篤

奈良林至

林昇甫

武藤正樹

望月泉

所属

四国がんセンター

兵庫県立がんセンター

四国がんセンター

済生会若草病院

徳島県立中央病院

順天堂大学医学部付属病院

九州がんセンター

新潟県立がんセンター

埼玉医科大学国際医療センター

大阪市立豊中病院

国際福祉大学三田病院

岩手県立中央病院

班長協力者

愛媛県がん診療連携協議会メンバー

池谷俊郎(班長協力者)

池田文広(班長協力者)

船田千秋(班長協力者)

新海哲(班長協力者)

若尾文彦(班長協力者)

前橋赤十字病院

前橋赤十字病院

四国がんセンター

四国がんセンター

国立がんセンター

谷水班の地域連携クリティカルパスの作成指針

- 診療ガイドラインに沿って作成する
- 医療機関の機能と役割分担を明記する
- 診断、治療、外来、緩和ケア、在宅、看取りまで
- 拠-病-診-看-在-薬 - 連携を包含する
- 共同診療計画（連携パス）を各疾患の治療法ごとに作成する
- 連携の意志がある地域の全医療機関が使えるもの
- 連携を説明し同意を得る
- 緊急時対応の取り決めを明記する
- 紙のひな型を提示する。将来的には電子化を見据える
- 連携医療機関と定期的に協議する場を設ける

谷水班として作成すべき4点セット

- ①医療機関の機能・役割分担表
- ②共同診療計画表（連携パス）
- ③私のカルテ
- ④医療連携のポスター

① 医療機関の機能・役割分担表

機能	専門的ながん診療	かかりつけ医	緩和ケア	居宅
診断	確定診断、精密診断(ステージ診断)、再発時の診断	初期診断、再発時の診断、精査の必要性の判断		
検査	精密(画像、血液)検査、経過観察のための(血液、画像)検査	スクリーニング検査、経過観察のための検査	経過観察のための検査	
治療	縮小手術、内視鏡手術、定型手術、拡大手術、化学療法、術後補助化学療法、術前化学療法、放射線療法、臨床試験、症状緩和治療	術後症状コントロール、専門施設と連携した化学療法、術後補助化学療法の継続、症状緩和治療	症状緩和治療(疼痛、食思不振、倦怠感、呼吸困難等)	担当医による症状コントロール、症状緩和治療の継続
経過観察、対応、ケア	定期観察、かかりつけ医と連携した副作用・合併症の対応	日常の指導・管理、専門施設と連携した副作用・合併症の対応、レスパイト入院、ショートステイ	ホスピスケア、デイホスピス、レスパイト入院	療養の場の提供、デイケア、ショートステイ、レスパイト入院

②共同診療計画表（連携パス）

胃がん・大腸がんの連携パス

胃癌・大腸癌Stage1術後長期連携パス(医療者用) 様

病院主治医 _____ (電話: _____)

診療所名: _____ 主治医 _____ (電話: _____)

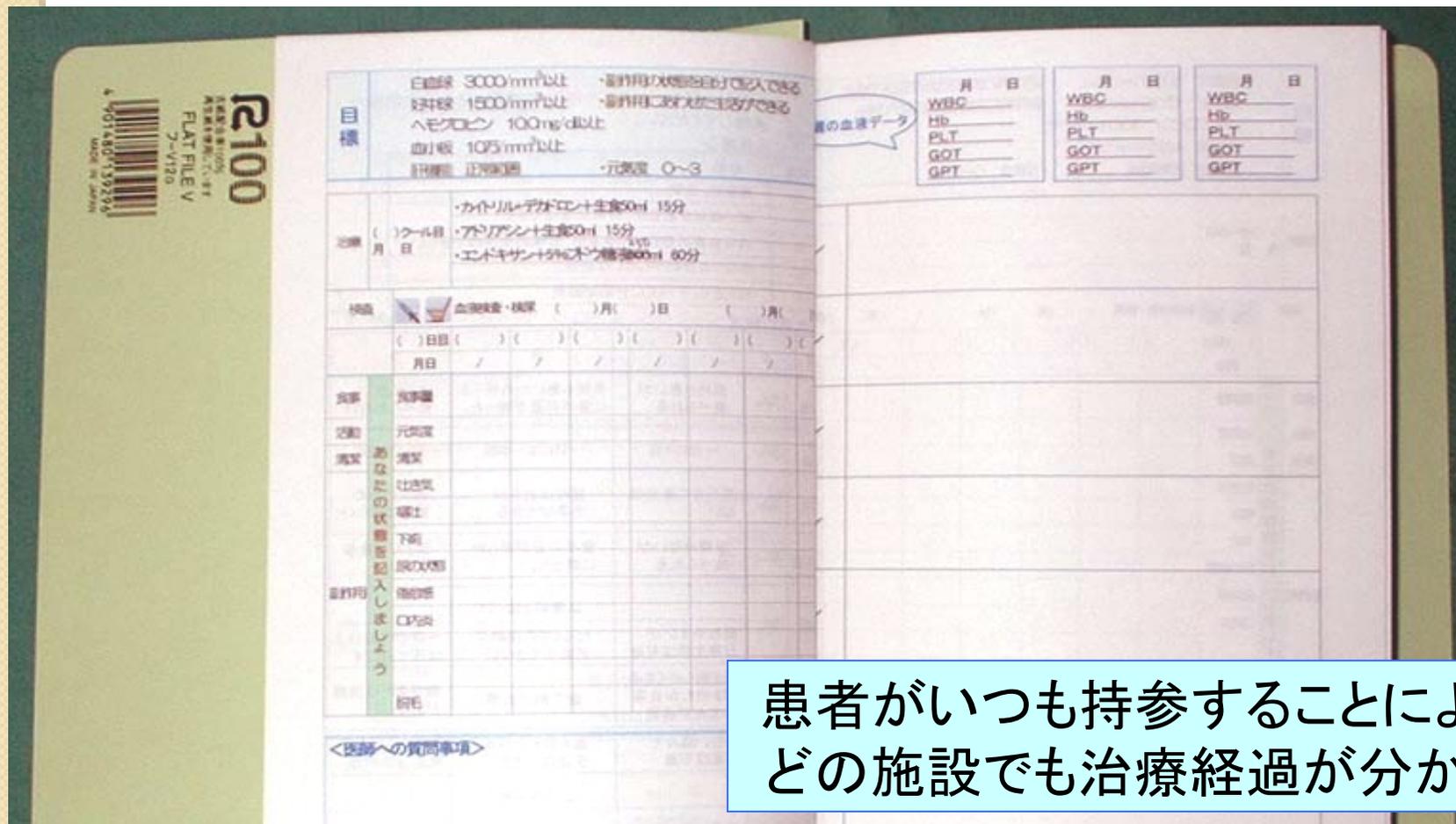
項目	病院	診療所における日常診療						
	再院 /	術院外来 6ヵ月後 /	術院外来 1年後 /	術院外来 1年半後 /	術院外来 2年後 /	術院外来 3年後 /	術院外来 4年後 /	術院外来 5年後 /
達成目標				化学療法の実施				
連携、連絡	再発等の場合、横浜医療センターに連絡							
教育・指導	<input type="checkbox"/> 患者様用パス説明							
検査・測定	PS	<input type="checkbox"/>						
	血圧	<input type="checkbox"/>						
	体温	<input type="checkbox"/>						
	体重	<input type="checkbox"/>						
	身長	<input type="checkbox"/>						
	心電図	<input type="checkbox"/>						
	採血	1ヶ月毎	<input type="checkbox"/>					
腫瘍マーカー	3ヶ月毎	<input type="checkbox"/>						
採尿	1ヶ月毎	<input type="checkbox"/>						
排便	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
腹部X線	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
腹部超音波	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
内視鏡	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
CT	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
MRI	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>

医療者用連携パス
術後パスであれば最低限必要な診察や検査、化学療法パスであれば投与計画(間隔など)、標準的な診療計画を提示する

共同診療計画表作成の方針

- 汎用性を意識したひな型を作成する。
 - オリジナリティを尊重しつつ、先進例を生かす。
 - 標準的治療、診療ガイドラインという観点からのチェック。
 - ひな型の形式を固定するのではなく、要件、項目を決定する。
- 作成するもの
 - オーバービューの共同診療計画表：医療者用、患者用
 - 共同診療計画表に医療機関（と担当者）を記入する。
 - 医療者用シート、患者用シート、自己チェックシート
- 専門的ながん診療を行う医療機関で押さえるポイントと間隔、かかりつけ医等で押さえるポイントと間隔を示す。
- 精査、対応（紹介、移動）が必要と判断されるチェックポイント（タイミング）を示す。
- 多職種チーム活動の視点を入れる（薬剤管理（薬剤師の視点）、看護・療養管理（看護師の視点）等）。

③私のカルテ（患者日誌）



患者がいつも持参することにより
どの施設でも治療経過が分かる

患者用連携パス

私のカルテ

- 地域連携パスの説明書・同意書
- 決定した連携先医療機関の一覧
- 知っておきたい私の診療情報
- 患者用連携パス
- 自己チェックシート
- おくすり手帳、副作用の説明書

外来化学療法(TS1)の患者用連携パス

TS-1胃癌術後補助化学療法および検査スケジュール

さま

服薬開始日 年 月 日	3カ月後 年 月	6カ月後 年 月	9カ月後 年 月	1年後 年 月	1年 3カ月後 年 月	1年 6カ月後 年 月	1年 9カ月後 年 月	2年後 年 月	2年 6カ月後 年 月	3年後 年 月	3年 6カ月後 年 月	4年後 年 月	4年 6カ月後 年 月	5年後 年 月
----------------	-------------	-------------	-------------	------------	-------------------	-------------------	-------------------	------------	-------------------	------------	-------------------	------------	-------------------	------------

函館五稜郭病院	血液検査 腫瘍マーカー 	血液検査 腹部CT 腫瘍マーカー	血液検査 腹部CT 腫瘍マーカー	血液検査 腹部CT 腫瘍マーカー	血液検査 腹部CT 腫瘍マーカー 内視鏡	腹部CT	腹部CT	腹部CT	腹部CT 内視鏡	腹部CT	腹部CT 内視鏡	腹部CT	腹部CT 内視鏡	腹部CT	腹部CT 内視鏡
	薬物 (TS-1) 治療 → 服薬日誌 服薬指導があります 副作用についての 説明があります 	 <p>気になる症状は主治医に 伝えてください。</p>													

6カ月後	9カ月後	1年後	1年 3カ月後	1年 6カ月後	1年 9カ月後	2年後	2年 6カ月後	3年後	3年 6カ月後	4年後	4年 6カ月後	5年後
------	------	-----	------------	------------	------------	-----	------------	-----	------------	-----	------------	-----

連携診療所	2週間毎に受診	1カ月毎に受診
	血液検査 	<3カ月毎> 血液検査 (腫瘍マーカー)
	薬物 (TS-1) 治療 → 服薬日誌 	気になる症状は主治医に 伝えてください。

函館五稜郭病院

連絡先:

主治医:

診療所名:

連絡先:

主治医:

【図2 TS-1による胃癌術後補助化学療法における地域連携パス (患者用)】

私のカルテ（服薬記録）

服薬記録

診察時には、この手帳を担当の医師または薬剤師に見せましょう。



氏名

有害事象（自覚症状の早期発見役立つ。）

電話番号

担当医師名

本資料は処方箋調剤請求のための資料ではありません。 第2版 2017年8月発行

提供：TAKEDA 大塚薬品工業株式会社
http://www.taiko.co.jp/

< 服薬記録 > 記入例

服薬期間（予定）
2月1日～2月28日

休薬期間（予定）
3月1日～3月4日

飲む薬

カプセルの種類
  
1日(2)カプセル×2回

変更があった場合
(2月16日)

カプセルの種類
  
1日(2)カプセル×2回

	日		月		火		水		木		金		土	
	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕	朝	夕
日付			27		2		3		4		5		6	
服薬数			×	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
症状														
日付	7		8		9		10		11		12		13	
服薬数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
症状														⑨
日付	14		15		16		17		18		19		20	
服薬数	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×	×
症状	⑨		⑨		⑨		⑨							⑧
日付	21		22		23		24		25		26		27	
服薬数	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2	2
症状							⑦							
日付	28		31		2		3				5		6	
服薬数	2	2	2	×										
症状														
日付	7		次のページに書く											
服薬数														
症状														

記入方法

- 日付けを入れ、飲んだ薬の数を服薬数の欄に記入し、調子が悪かったり、飲み忘れて飲まなかった時は服薬数の欄に×印を付けてください。（飲み忘れても絶対に2回分を1度に飲まないでください。）
- 休薬期間には斜線、受診日には○印をつけておきましょう。

この薬以外の治療薬

月	日	～	月	日
月	日	～	月	日
月	日	～	月	日

メモ

上記以外の症状や気になることなどをメモしておきましょう。

2/13 口内炎かできた
2/14 朝用飲み忘れ
2/15 診察、口内炎のための薬がわる
2/20 午後下痢1回 (自カプセル)
2/24 少しはき気があった 3/1 朝の非服用

症状

次のような症状が起きたら、症状の番号を記載しておきましょう。

- ① のどの痛み、発熱
- ② 出血（あざができる：紫色・赤色）
- ③ めまい、たちくらみ
- ④ からだがだるい
- ⑤ しびれ、舌のもつれ、歩行時のふらつき、物忘れ
- ⑥ 息切れ、せき、発熱あるいはかぜのような症状
- ⑦ 吐きけ、食欲がない
- ⑧ 下痢、腹痛、血便
- ⑨ 口内炎
- ⑩ 口や目の結膜のただれ
- ⑪ 目の充血、痛み
- ⑫ 涙が多く出る、目のかすみ、目がかわく
- ⑬ 目や皮膚が黄色い
- ⑭ 膝や手足などがむくむ
- ⑮ 尿量が減る、血尿
- ⑯ にどしとわがわがする
- ⑰ 発熱、かゆみ、色澤沈着、手足の皮膚腫
- ⑱ 手足に力が入らない、振りが強い

④医療連携ポスター

♡♡♡♡♡ **安心と信頼を支える医療の連携** ♡♡♡♡♡

がん診療連携拠点病院と地域医療機関は連携してあなたの療養を支えます

私のカルテを持ちましょう



がんの地域連携クリティカルパス4点セット

- ① 病院と診療所の役割分担表
- ② 共同診療計画表(医療者用連携パス)
- ③ わたしのカルテ(患者用連携パス)
- ④ 連携ポスター

がん専門病院

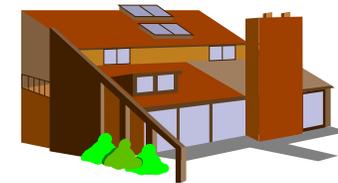


連携ポスター



私のカルテ

診療所



日常診療

手術
定期検査(CT、内視鏡など)
再発時の抗がん剤治療など

胃癌StageII, III 術後長期連携パス 案

〇〇〇〇病院主治医: _____ (電話: _____)

診療所名: _____ 主治医: _____ (電話: _____)

項目	内容	連携期間												
		入院	退院	外来	6ヵ月後	1年後	1年半後	2年後	2年半後	3年後	4年後	5年後		
経過観察	術後経過観察	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
検査	胸部X線	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	心電図	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	腹部超音波	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	胸部CT	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	MR	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
連絡・連絡	連絡頻度	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	連絡手段	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
検査・測定	血圧	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	体温	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	腫瘍マーカー	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	体重	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	栄養状態	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
診療報酬	特定後援医療管理料(225x2)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	診療報酬(診療料:1720)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇
	薬料(薬物検査料:400)	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇	〇

共同診療計画表(地域連携クリティカルパス)

腫瘍マーカーなどの検査
術後経口抗がん剤投与



2010年診療報酬改定

地域連携クリティカルパス関連項目

①施設拡大

②疾病拡大（がんに拡大）



②地域連携パスの疾病拡大

06年 大腿骨頸部骨折

08年 脳卒中

10年 がんへと疾病拡大

地域連携パスが「がん」へ疾病拡大

- **がん治療連携計画策定料（計画策定病院（退院時））**

750点

- [算定要件] がんと診断された患者で、計画作成病院において、初回の手術・放射線治療・化学療法等のため入院した患者に対し、あらかじめ策定してある地域の医療機関との地域連携診療計画に基づき、個別の患者の治療計画を策定し、患者に説明し、同意を得た上で、文書により提供するとともに、退院後の治療を連携して担う医療機関に対して診療情報を提供した場合に、退院時に算定する。

- **がん治療連携指導料（連携医療機関（情報提供時））**

300点

- [算定要件] がん治療連携指導料1を算定した患者に対し、計画作成病院において作成された治療計画に基づき、計画作成病院と連携して退院後の治療を行うとともに、計画作成病院に対し、診療情報を提供した場合に算定する。



パート4

5大がん連携パス事例

胃がん・大腸がん・肺がん・乳がん・肝がん
そして終末期

胃がん・大腸がんの地域連携パス



済生会若草病院外科 佐藤靖郎先生

TS-1のがん連携パス

- TS-1内服による病診連携パス
 - 服薬アドヒアランスの問題がある
 - 消化器がんの症例が多い
 - がん専門病院で術後TS-1を導入して診療所とレジメンを共有
 - TS1内服の病診連携は応用範囲が広い
 - 胃がん、大腸がん
 - 頭頸部がん、手術不能例
 - 再発乳がん、膵臓がん、非小細胞肺がん、胆道がん

胃癌StageII, III 術後長期連携パス 案

様

〇〇〇〇病院主治医: _____ (電話: _____)

診療所名: _____ 主治医 _____ (電話: _____)

		〇〇〇〇病院											
		入院	退院	外来	6カ月後	1年後	1年半後	2年後	2年半後	3年後	4年後	5年後	
達成目標		順調な回復				化学療法の完遂							術後フォローの完遂
手術		<input type="checkbox"/>											
検査・診断	心電図 腹部X線 腹部超音波 内視鏡 CT MRI	紹介			<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>	<input type="checkbox"/>
連携・連絡 教育・指導	<input type="checkbox"/> 連携説明 <input type="checkbox"/> 治療スケジュール説明 <input type="checkbox"/> 連携パス説明	診療所 再発、副作用発生等の場合、〇〇〇〇病院に連絡											
投薬	チェック 処方 消化器症状 皮膚症状 全身症状 薬物処置	<input type="checkbox"/> 残薬チェック <input type="checkbox"/> 併用薬チェック <input type="checkbox"/> TS-1			(Blue arrows indicating follow-up schedule for each item)								
検査・測定	PS 血圧 体温 採血 腫瘍マーカー 採尿	(Blue arrows indicating frequency of tests: 2週毎, 1ヶ月毎)											
診療報酬	特定疾患療養管理料(225x2) 診療情報提供料 I (250) 悪性腫瘍特異物質治療管理料(400)	(Blue arrows indicating payment schedule across years)											

港区がん連携パス研究会



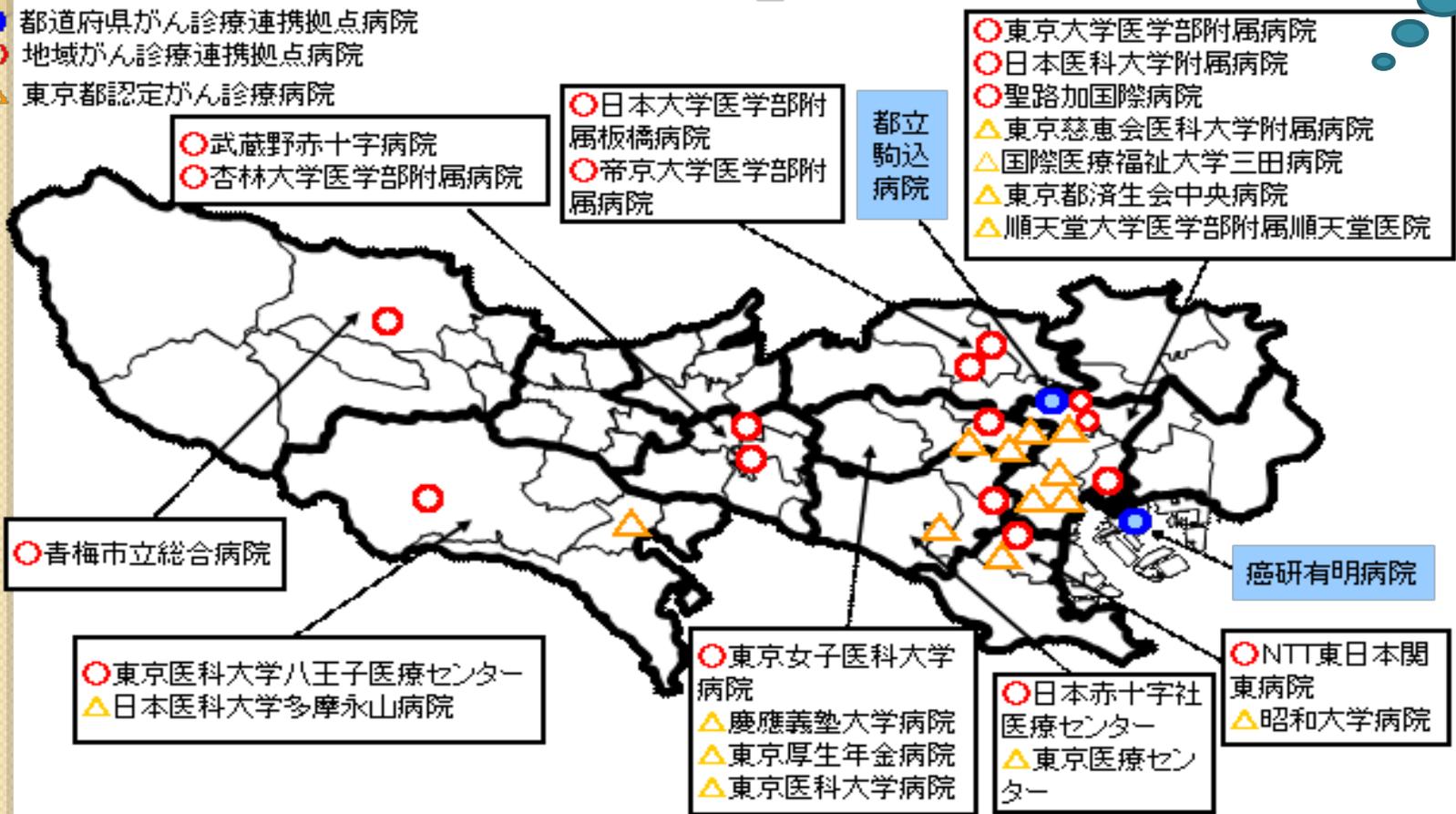
胃がん・大腸がん手術後
外来経口抗がん剤療法（TS-1）の連携パス

国際医療福祉大学三田病院
東京都済生会中央病院
山王病院

東京都における地域がん診療連携拠点病院・都認定がん診療病院

区中央部医療圏には7つある

- 都道府県がん診療連携拠点病院
- 地域がん診療連携拠点病院
- △ 東京都認定がん診療病院



東京都の13の二次医療圏に24のがん診療拠点病院がある！

港区医師会アンケート調査

1. がん患者の診断を行うことがありますか。

- はい いいえ

2. がん治療の経験はありますか。

- はい 以前所属していた施設で経験がある

↓

どのようながん種の患者さまを診ていますか？（複数回答）

- 胃がん 大腸がん 肺がん 乳がん 肝がん
 前立腺がん 子宮がん その他（

3. がん術後フォローアップの病診連携に興味がありますか。

- はい いいえ

その他（

4. 検査、診断可能な項目を教えてください。（複数回答）

一般血液検査の迅速検査

可能でない→（何日後に結果が出ますか： 日

腫瘍マーカー 内視鏡検査 X線

エコー CT MRI マ

その他（

5. どの程度の状態のがん患者なら逆紹介で受け入れることが可能ですか。

状態の良い、術後フォローのみの患者

状態の良い、術後補助化学療法患者（経口抗癌剤）

状態の良い、術後補助化学療法患者（注射抗癌剤）

状態の良い、進行再発がんの化学療法（経口・注射抗

終末期の患者（緩和ケアの患者）

受け入れられない

その他（

6. 術後フォローのがん患者を受け入れた場合の不安な点（複数回答）

定期的診断・治療

緊急時の対応

化学療法の副作用への対応

患者のメンタルケア

その他（

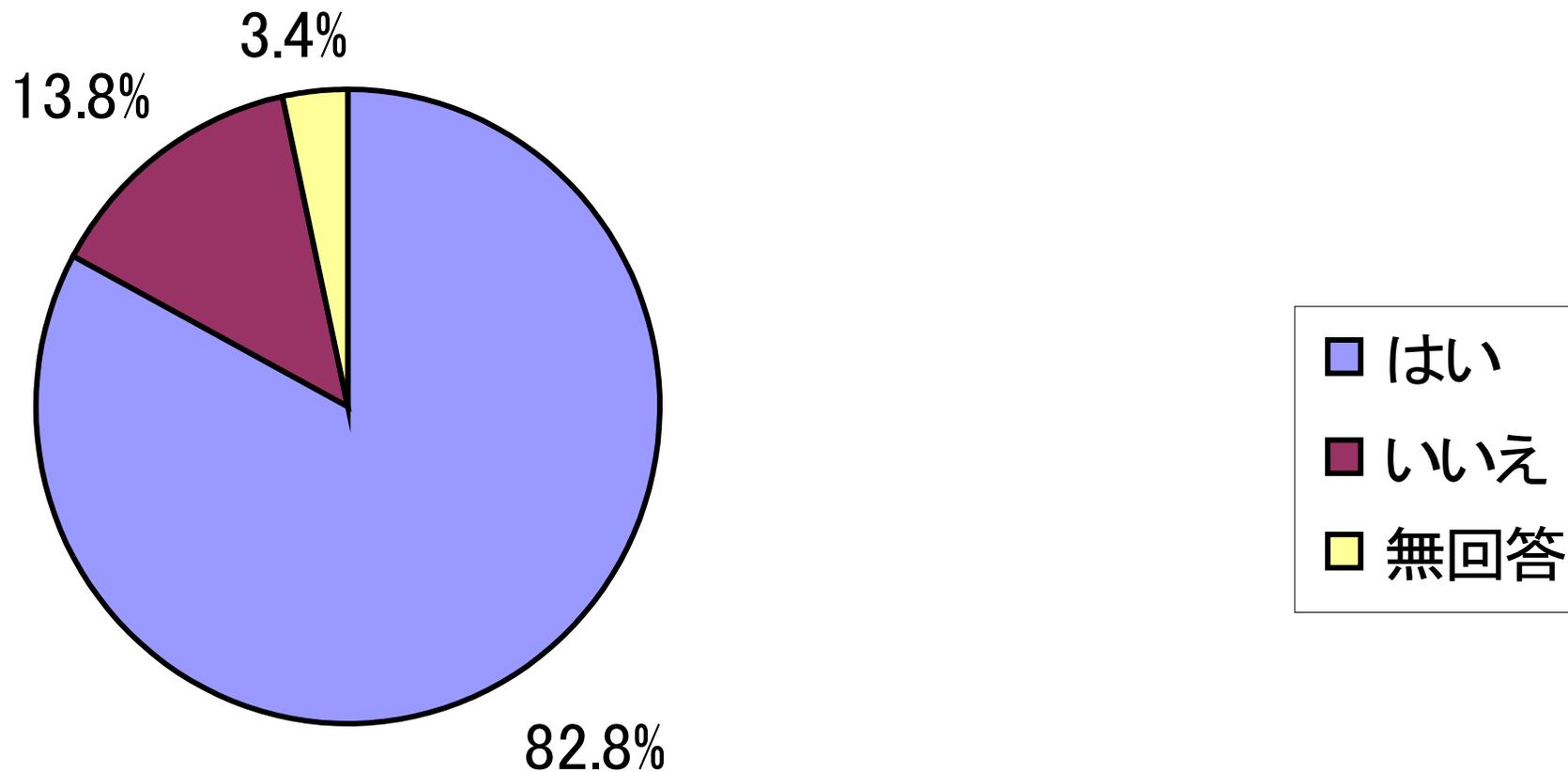
7. 在宅医療、往診を行っていますか。

- はい いいえ

8. 終末期がん患者を在宅で看取ったことがありますか。

- はい いいえ

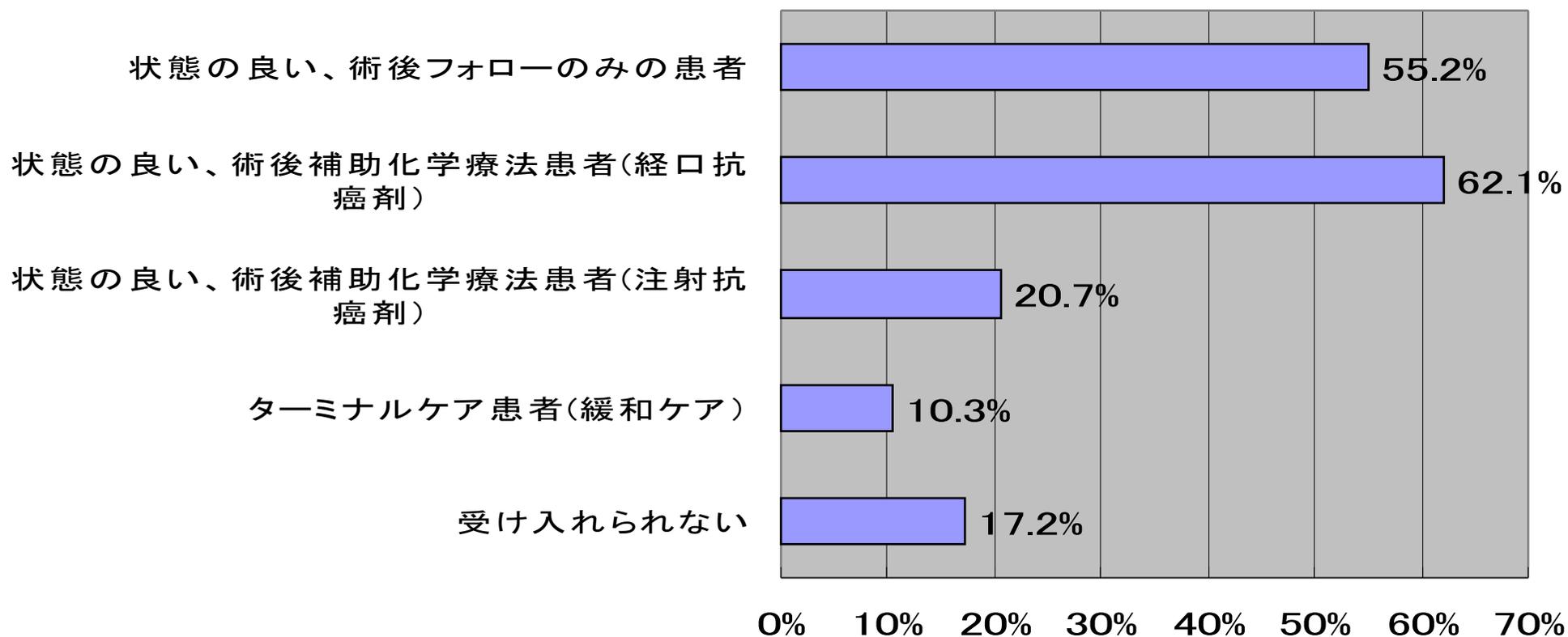
がん術後フォローアップの病診連携に興味がありますか



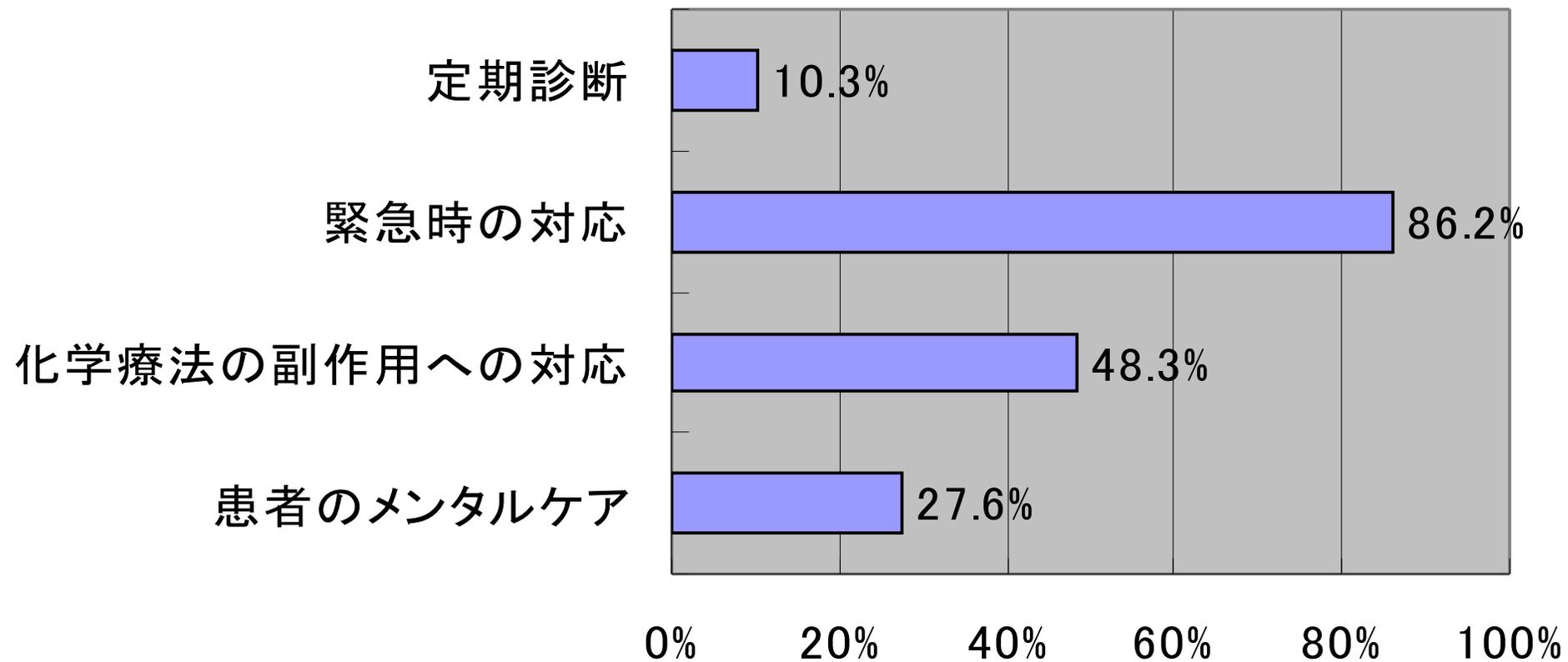
がん術後のフォローに興味を持つ理由

- 「現在すでにがんのフォローアップ中の患者がいる」
- 「消化器外科に携わっていた経験が役立てられるから」
- 「勤務医時代はがん診療に携わっていたから」
- 「以前は一般外科医だったから」
- 「がん専門施設に勤務していたから」
- 「当院から紹介先で手術を受け、状態が安定した患者さんが再び当院への通院を希望された場合に必要だから」
- 「悪化時にはすぐに受け入れていただける体制になればできるだけ自宅で過ごさせてあげたいから」
- 「患者さんのニーズから」
- 「地域医療の一環として」

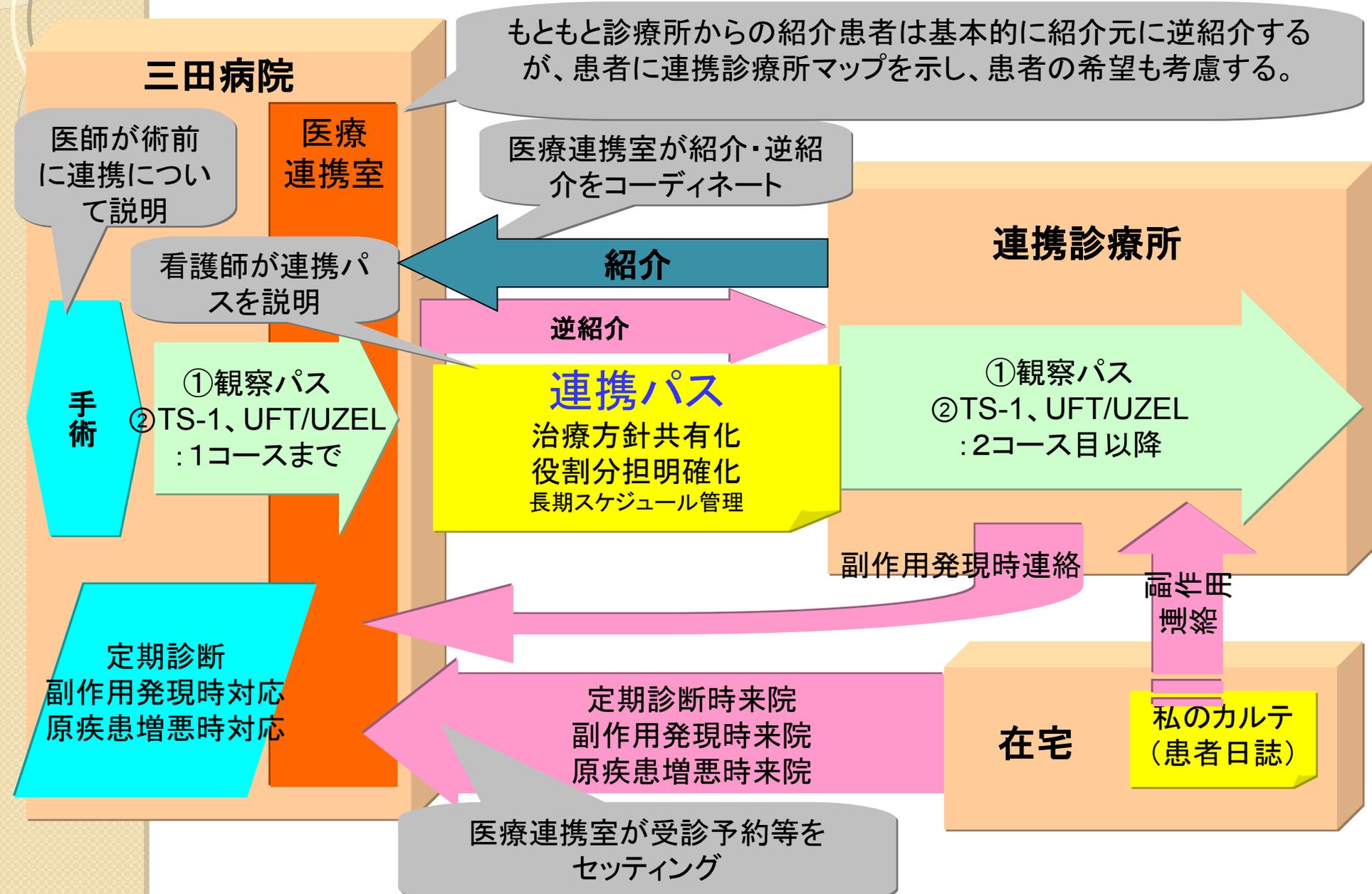
どんながん患者さんを フォローしたいですか？



病院に期待すること



胃がん・大腸がん連携パス（まずは観察パスから）



港区胃がん連携パス（目次）

- 地域連携パス患者説明書
- 診療情報提供書
- 連携先医療機関一覧
- 連携元病院情報
- 胃がんステージⅠ観察パス
- 胃がんステージⅡ・Ⅲ連携パス（TS-1連携パス）
- TS-1適正使用について
- 連携パスの運用方法、紹介・逆紹介の流れ、緊急時の対応（副作用発現時、再発時）
- 連携パス | Tシステムの紹介
- 病院緊急時連絡先



乳がんの地域連携パス

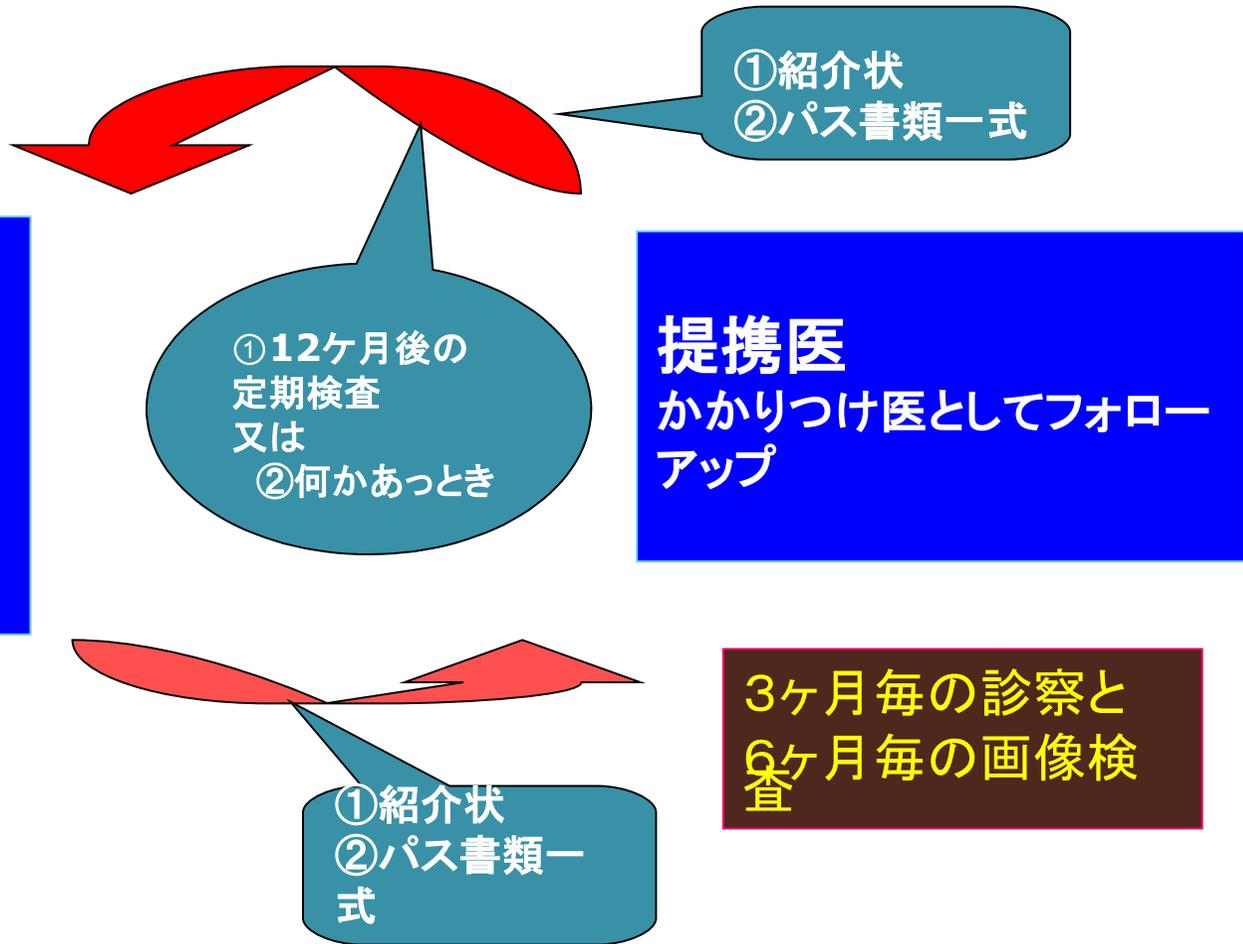
前橋赤十字病院

乳腺・内分泌外科 池田文広先生

乳がん術後地域連携パス流れ

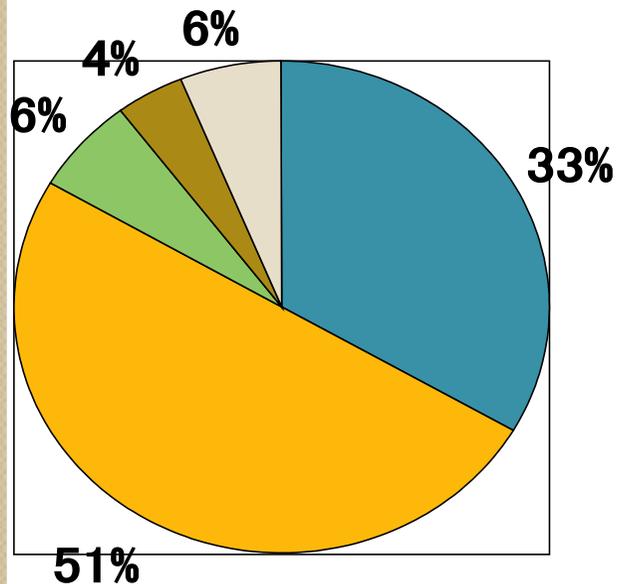
乳腺外来
①患者へ地域医療連携パスの説明と同意
②提携医療機関一覧で紹介先を決定

12ヶ月毎の定期診察



乳がん患者ステージと紹介先診療所

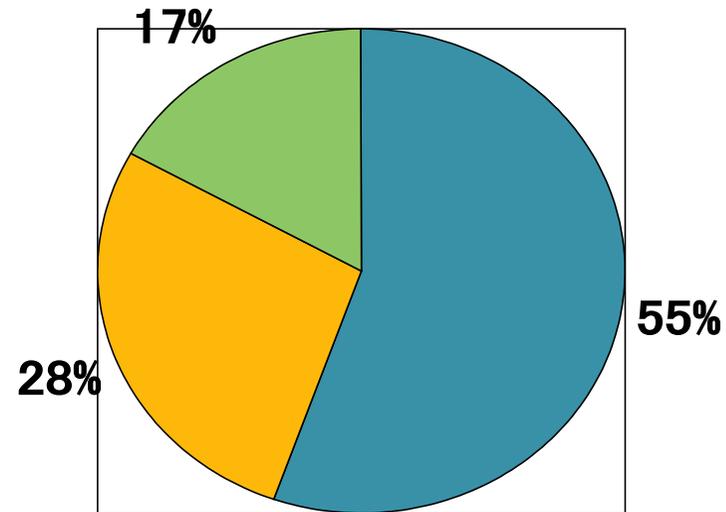
- 患者ステージ



144人



- 紹介先診療所



47診療所



乳がん連携パス（医療者用）

【医療者用シート】乳がん術後

		退院まで	開始時	6ヶ月							1年後				
		/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/
全身状態	PSの悪化がみられない														
	PS														
日常生活に支障を及ぼす副作用がみられない															
問診	TAM	更年期症状													
		骨下の変化													
		不正出血													
	AI剤	子宮体癌検診(年1回)													
		関節痛													
更年期症状															
骨密度測定(年1回)															
以下の症状が見られない															
複触診	腋所:腫瘍・硬結														
	腋窩:リンパ節腫大														
	鎖骨上窩:リンパ節腫大														
	患肢上肢:リンパ浮腫・炎症														
検査結果に異常がない															
検査	末梢血一般														
	生化学														
	腫瘍マーカー(CEA, CA15-3, その他)														
	マンモグラフィ														
	骨シンチ														
	胸部レントゲン														
	腹部超音波検査														
DT(PET-DT)															
服薬に間違いがない															
投薬管理	ホルモン剤処方														
	服薬状況確認														
	併用薬チェック														
説明支援	患者用パス	必要に応じて適宜説明													
	他臓器癌の検診について	必要に応じて													
	副作用対策	必要に応じて													
	服薬指導	必要に応じて													
	生活支援	必要に応じて													

* 異常が認められた場合には情報交換, または拠点病院にて対応

診療連携部

連携パスの患者に対する説明

- 医療の質と継続性の保証
 - 病院を離れるのではなく共同診療であること
 - 問題があればすぐに専門病院で診療を受けられること
 - 必ず1年に1度は専門病院で診療を受けること
 - 情報が相互に十分伝わっていること
- 地域医療連携により得られるメリット
 - 物理的に通院が楽になること
 - 待ち時間が短くなること
 - 併存疾患の診療が同時にできること

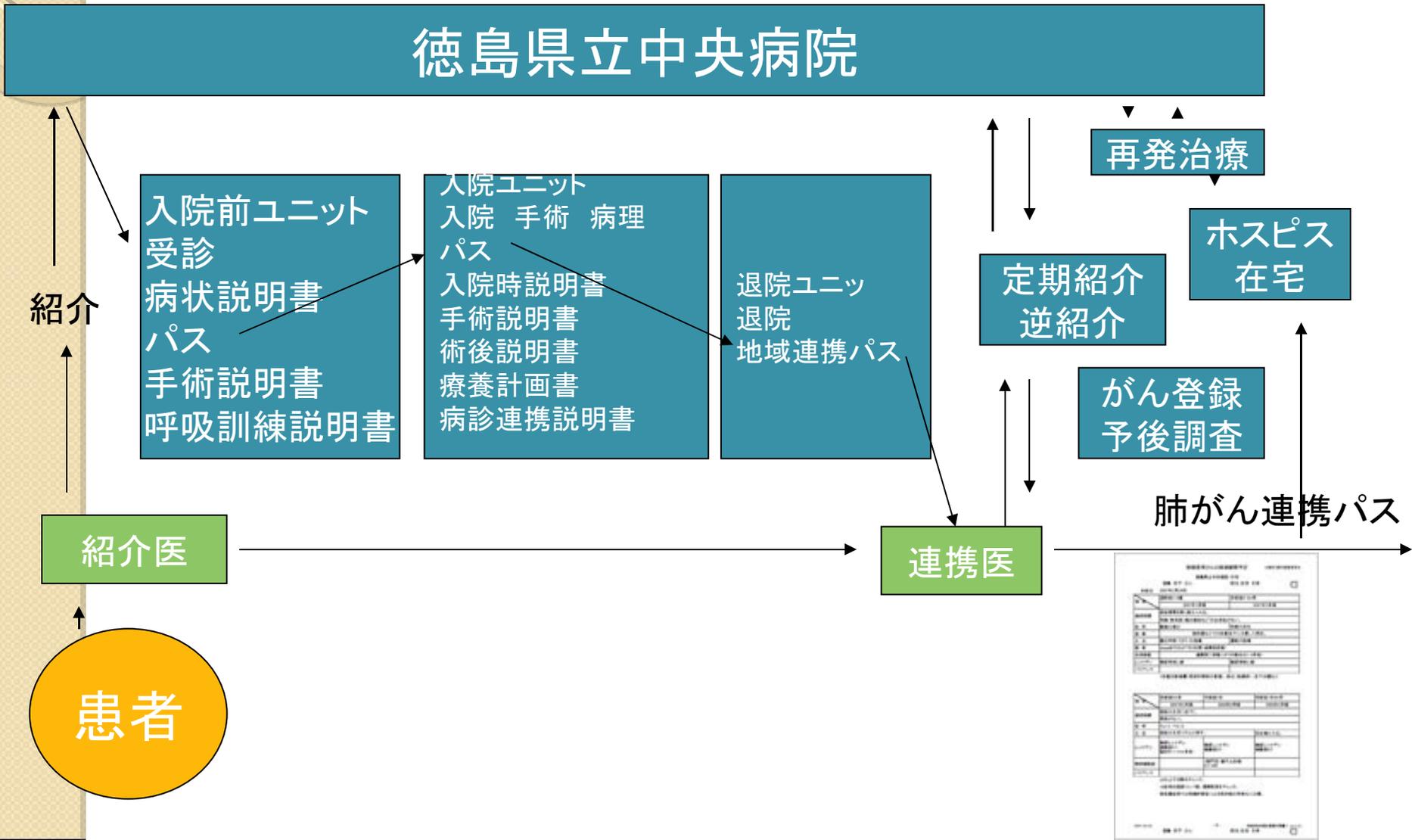
肺がんの地域連携パス

徳島県立中央病院



呼吸器外科 住友正幸先生

肺がんの地域連携パス



肺がん連携パス（医療者用、患者用）

肺癌患者さんの経過観察予定 ★院内・院外医療者用★

徳島県立中央病院・外科
徳島 花子 さん 担当: 住友 正幸

手術日 2007年2月24日

項目	退院後2-4週 2007年3月頃	手術後2-3ヶ月 2007年5月頃
達成目標	術後障害を乗り越えられる。	
症状	気胸・無気胸・胸水増加などの合併症がない。	
食事	創傷の減少 咳嗽の消失	
生活	肺気腫などでの体重低下に注意して測定。	
服薬	腹式呼吸・うがいの指導 運動の指導	
血液検査	stage II ではUFTを2年間(連携医依頼)	
レントゲン	連携医に依頼(UFTの場合は1-3月毎)	
パリアンス	胸部単純線	胸部単純線

*気管支断端瘻(漿液性喀痰の蓄増)、肺炎(粘膜炎)、皮下水腫など

項目	手術後6ヶ月 2007年8月頃	手術後1年 2008年2月頃	手術後1年6ヶ月 2008年8月頃
達成目標	術前の生活に近づく。		
症状	再発がない。		
生活	H.J.<3 P.S.<2		安定期に入る。
レントゲン	胸部レントゲン 胸腹部CT 脳MRI(→12ヶ月目)	胸部レントゲン 胸腹部CT	胸部レントゲン 胸腹部CT
喀痰細胞診	(肺門型)扁平上皮癌 B.I>600		
パリアンス			

p2以上では胸水チェック。
n2症例は頸部リンパ節、遠隔転移をチェック。
肺気腫症例では持続的感染による残存肺の荒無化に注意。

2007/02/24 徳島県立中央病院 肺癌連携パス ver.2.12

徳島 花子 さん 担当: 住友 正幸

(https://soudan-shien.on.arena.ne.jp/hina/down_hina.phpよりダウンロード)

医療者用

肺癌患者さんの経過観察予定 ★患者さん用★

徳島県立中央病院・外科
徳島 花子 さん 担当: 住友 正幸

手術日 2007年2月24日

項目	退院後2-4週 2007年3月頃	手術後2-3ヶ月 2007年5月頃
達成目標	術後障害を乗り越えられる。	
症状	気胸・無気胸・胸水増加などの合併症がない。	
食事	創傷が少なくなってきます。坐剤の必要も徐々に少なくなってきます。	
生活	咳が少なくなってきます。痛みを忘れてよく寝られる様になってきます。	
服薬	特に創傷はありません。体重が減少した方は元に戻る様に徐々に食事をアップしましょう。	
血液検査	腹式呼吸の練習しましょう。風邪に気を付けてうがいをしましょう。	
レントゲン	術前の状態に戻る様に徐々に運動を増やしましょう。	
	抗がん剤を服用される方は開始します。	
	咳や痰などの症状がなければ服薬の必要はありません。	
	血液検査はかかりつけ医の先生にお願いします。	
	レントゲン 受診時には胸部レントゲンを撮影します。	

【疼痛(いたみ)】
術後創傷、肋間神経痛として次の様な痛みや不快感、感覚異常が起こることがあります。
1) 手術創部に沿う肋骨
2) 手術を行った肋骨と椎体との間の関節
3) 手術を行った肋骨と胸骨との間の関節
4) 手術を行った肋間神経に沿うみぞおちから膈への痛み・不快感

【咳嗽(せき)】
術後1-3ヶ月の間、痰を伴わない咳が出る場合があります。痰を伴わない場合はおおむね無害で、気管支断端が粘膜炎で覆われる頃に消失します。痰が増加するようなら、必ず申し出て下さい。

2007/02/24 (https://soudan-shien.on.arena.ne.jp/hina/down_hina.phpよりダウンロード)

患者用

地域連携パス病期別適応率評価 (18ヶ月)

病期	18ヶ月
• I	36 / 51 (70.6%)
• II	6 / 12 (50.0%)
• III	4 / 12 (33.3%)
• IV	1 / 3 (33.3%)
• 合計	47 / 7 (60.3%)

肺がん連携パスの課題

- 併存症を有する患者
 - 肺気腫、気管支炎、喘息、心不全
 - 在宅酸素療法
- 手術不能、再発例
 - 化学療法、放射線療法
- 看取りパス
 - 在宅連携パス

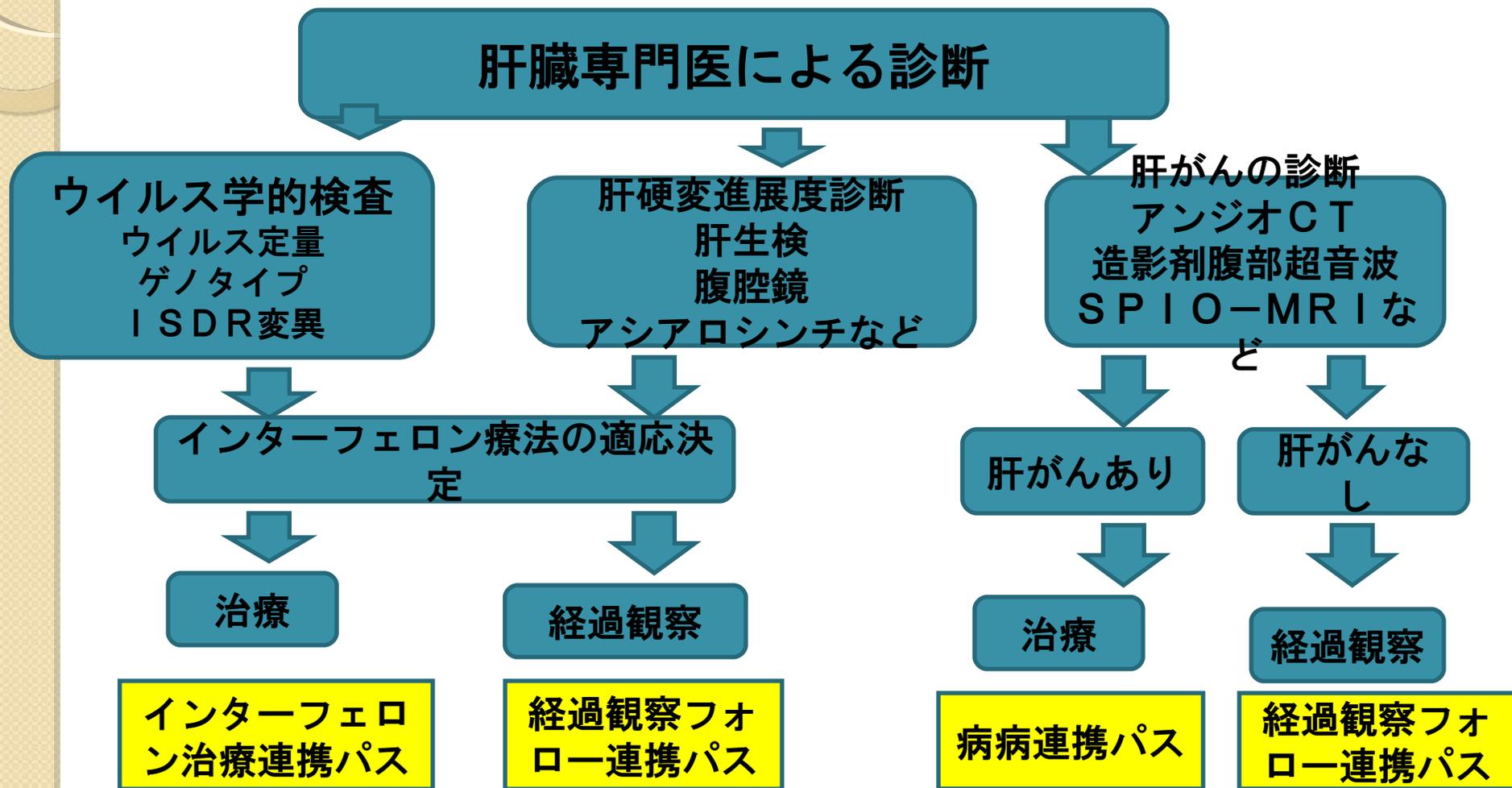
肝がん地域連携クリティカルパス

武蔵野赤十字病院



朝比奈靖浩消化器科副部長

C型肝炎ウイルスキャリアの 経過フローチャートと連携パス



①肝がんスクリーニング用連携パス

②肝がん治療用連携パス

肝がん連携パス①

- ①肝がんスクリーニング用の連携パス
 - C型肝炎患者対象の肝がんスクリーニングを行うためのパス
 - 「科学的根拠に基づく肝癌診療ガイドライン作成に関する研究班」のアルゴリズムで作成
 - がん診療連携拠点病院で行う項目と、かかりつけ医が行う項目のそれぞれに目標、設定値を記載し、病院へ紹介する基準を設定
 - 肝硬変の進行度によって画像診断の間隔が変わるため、2種類に分けている。

肝炎インターフェロン治療計画料 (新設)

- 肝炎インターフェロン治療計画料（700点）
 - 肝炎治療の専門医療機関において肝炎インターフェロン治療に関する治療計画を策定
 - 施設基準
 - 専門医、インターフェロン療法の実施、肝がんのハイリスク群の同定と早期診断
- 肝炎インターフェロン治療連携加算（50点）
 - 肝炎治療の専門医療機関において策定された治療計画に基づいて、治療を行い、副作用を含めた治療状況について計画査定医療機関に情報提供を行った場合に算定

肝がん連携パス②

- ②肝がんラジオ波治療後の連携パス
 - 武蔵野赤十字病院ではラジオ波焼灼療法による根治術を行っている（7年生存率は54%と手術に匹敵する成績）
 - しかし、局所再発率も手術例と同じく高い
 - ラジオ波焼灼療法の術後患者用連携パスを作成し、画像診断や他検査の間隔、病院へ紹介する腫瘍マーカーの基準値などを明記して運用している

前立腺がんの地域連携パス

前立腺がんの
地域連携パス作成
港区プロジェクト



慈恵医大泌尿器科山崎春城先生

前立腺がん連携パスを港区で作る！

- 前立腺がんの地域連携パスを作る
 - 06年7月より港区ではPSAの無料検診が始まった
- 病院間の話し合い
 - 06年11月 三田病院と慈恵大学病院との間で、前立腺がんの地域連携パスを作成する話し合いを実施
 - 前立腺がんの病院間の役割分担と患者アルゴリズムをすり合わせる
- 港区の開業医の先生方の参加を募る
- 前立腺がんの地域連携パスを作る

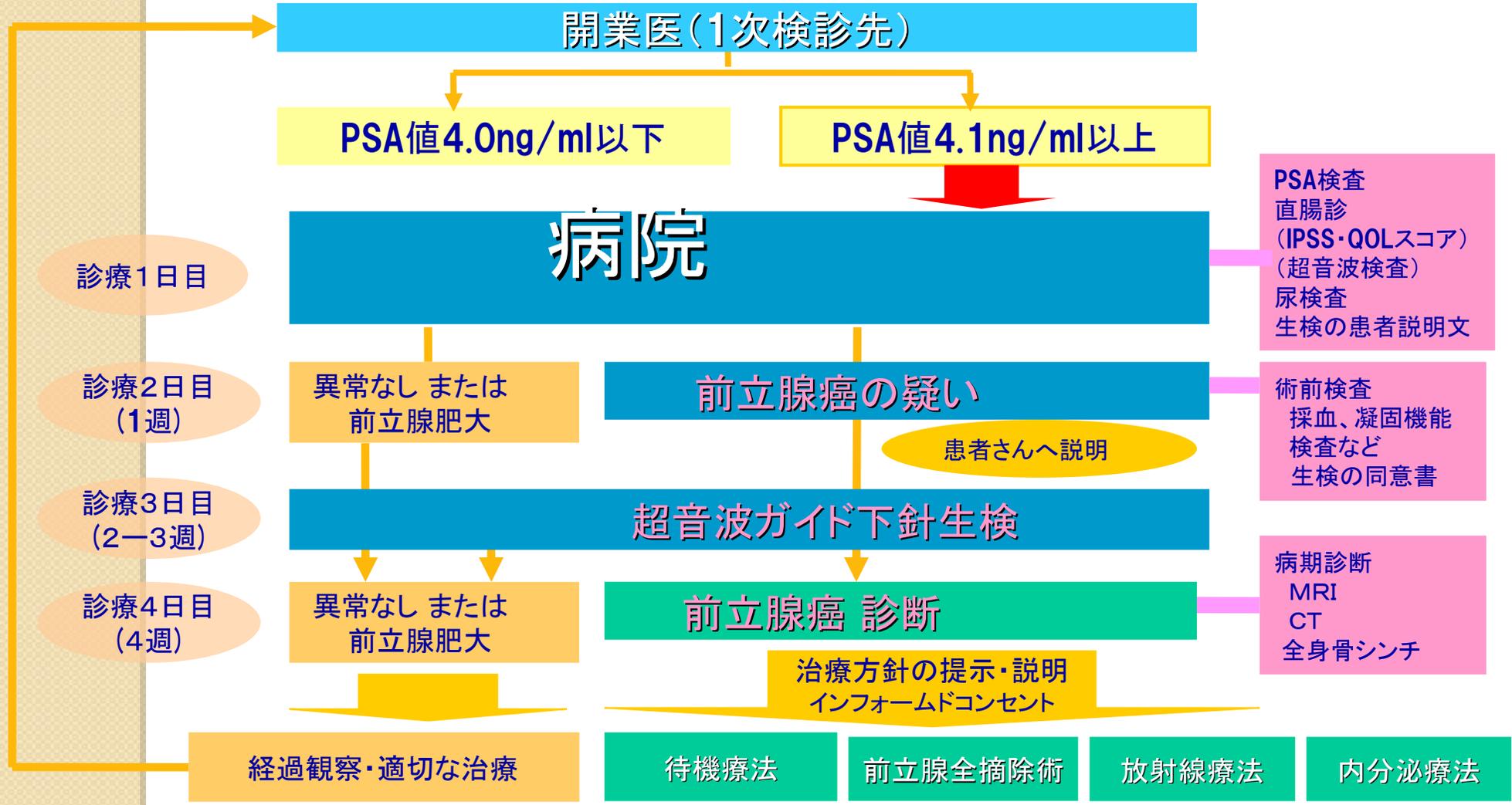
前立腺がん連携パス作成経緯

- 前立腺がん打ち合わせ会
 - 2006年11月9日 ロイヤルパーク汐留タワー Meeting Room D
 - 慈恵医大 颯川 山崎
 - 三田病院 武藤 服部
- 港区前立腺がん地域連携パス相談会
 - 2007年1月31日（水） 第一ホテル東京 4階会議室
 - 診療所側
 - 坂詰外科 坂詰 馬場クリニック 馬場 南田町クリニック 今村
 - 病院側
 - 慈恵医大 山崎 三田病院 武藤 服部

前立腺がん連携パス作成経緯

- AU医療連携カンファ
 - 2007年3月1日（木）19:00～大手町東京會館レベル21
 - 参加49名
- CapMnet Meeting
 - 平成19年4月25日（水） 19:30～ 第一ホテル東京 4階 フローラ
 - 参加13名（添付資料）
 - 山崎Dr（慈恵）と服部Drで最終の患者紹介基準を作成
- 今後の予定
 - 前立腺がん連携パスの検証を6月に予定

前立腺がんの患者紹介・逆紹介アルゴリズム



前立腺連携パス①

かかりつけ医



病院



かかりつけ医

PSA4.1ng/ml
以上の患者に対して
開業医の
先生方に実施
していただく項目

前立腺生検

病名：

前立腺針生検(患者様用ケリカルパス)

経過 日付	入院日・検査前日	検査当日・検査前 1月1日	検査当日・検査後 1月1日	検査後1日目・退院 1月2日
治療		検査 腰椎麻酔です		計量します
検査				血圧検査します
内服 点滴	寝る前に下剤を お飲み下さい	検査前より点滴を 始めます	検査後引き続き 点滴があります	朝のお薬を お飲み下さい
安静度	制限はありません		検査後に時間後まで 起きれず休んでください	
食事	夕飯は早めます 21時に夕食をとり 意欲がなくなると 危険です	飲水が得意になり ない限り(下下さい)	検査3時間後より 水分が飲めます	朝食から食事が 出来ます
清潔	シャワーまたは風呂に 入っていただきます			シャワーまたは風呂に 入れます
排泄			検査後よりお水の 管が入ってきます	朝のお水の管を抜き ます。管が抜けただけは 1リットルの袋にお水を 溜めていただきます
処置		朝、清潔にします		
説明	検査と入院生活に ついてお話しします			退院後の生活・薬に ついてお話しします

特定*特別医療法人慈恵会 相澤病院 泌尿器科

生検の結果
前立腺がん(一)
患者に実施していただく
定期検査項目と
紹介の適応とタイミング

前立腺連携パス②

かかりつけ医



病院



かかりつけ医

前立腺切除

病名	経尿道的前立腺切除術(患者様用ケニカルパス)						
経過日付	入院日・手術前日	手術当日・術前1日目	手術当日・術後1日目	術後1日目 1月1日	術後2日目 1月3日	術後3日目 1月4日	術後4日目 1月5日
治療		麻酔科で手術を行います					回復時に利尿剤を処方します
検査	身長・体重を測定します		血圧検査を行います				
内服薬	経口薬(抗生物質)を処方します	手術前より点滴療法を続けます	術後引き続き点滴療法を続けます	朝の起床時より点滴療法を続けます			朝より薬を処方(下痢・腹痛・嘔吐等の副作用の出現に注意)
安静度	安静にしてください		翌朝までは起きず安静にしてください	朝の起床後より歩行を開始してください			お腹に力を入れないで歩行してください
食事	夕食は控えめにしてください		朝食は控えめにしてください	朝からの食事ができますが、水分は控えめにしてください		普通食が出来ます	
清潔	手術前夜は入浴を控えてください			体位は仰臥位です	おし水の管に付着しないよう清潔に保ちます	おし水の管が抜けたら交換します	おし水の管が抜けたら交換します
排泄			手術後はおし水の管が入っています	おし水の管は入っています			
処置	術前洗滌します	手術中に尿管を挿入します	術後おし水の管が入っています	膀胱留置は午前まで続けます			
説明	手術の目的・経過について説明を行います		手術結果について説明を行います	手術後の生活について説明を行います			退院後の生活について説明を行います

PSA4.1ng/ml以上の患者に対して開業医の先生方に実施していただく項目

前立腺切除後患者に実施していただく内分泌療法と定期検査項目

前立腺手帳（患者携帯用）の作成



前立腺がんの疾患知識
検査法や治療法の解説
患者用クリティカルパス

がん診療連携拠点病院における 5大がん地域連携クリティカルパス 現状アンケート



東京女子医科大学病院 地域連携室

下村 裕見子さん

2009.3.8

[方法]

がん診療連携拠点病院ら361

(がん診療連携拠点病院351、東京都がん診療認定病院10)

病院長宛に郵送にてアンケートを実施。

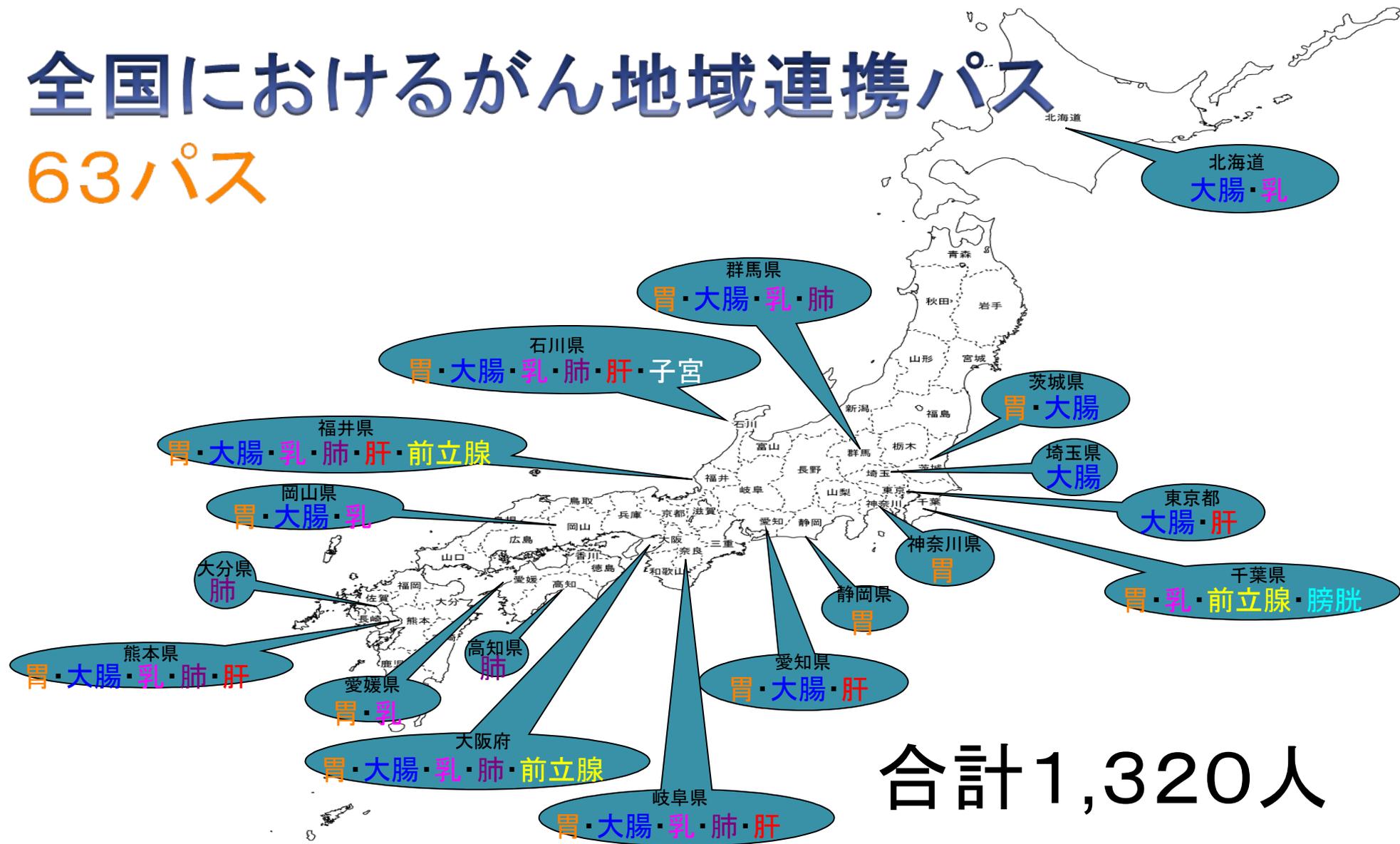
郵送期間：平成21年1月5日～1月20日

郵送数：361通

回答数：214通(回収率59.3%)

全国におけるがん地域連携パス

63パス

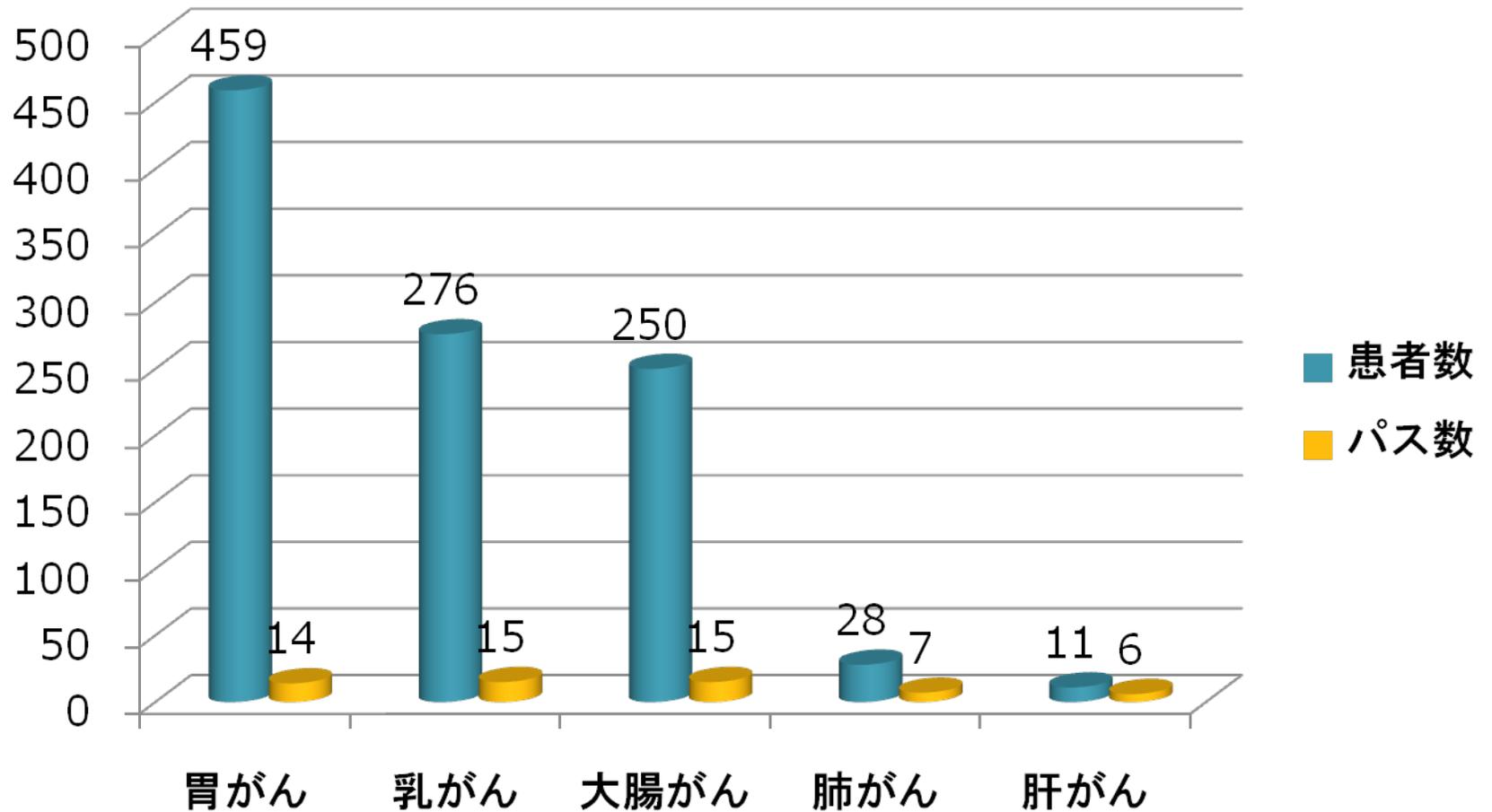


合計1,320人

2009.3.8

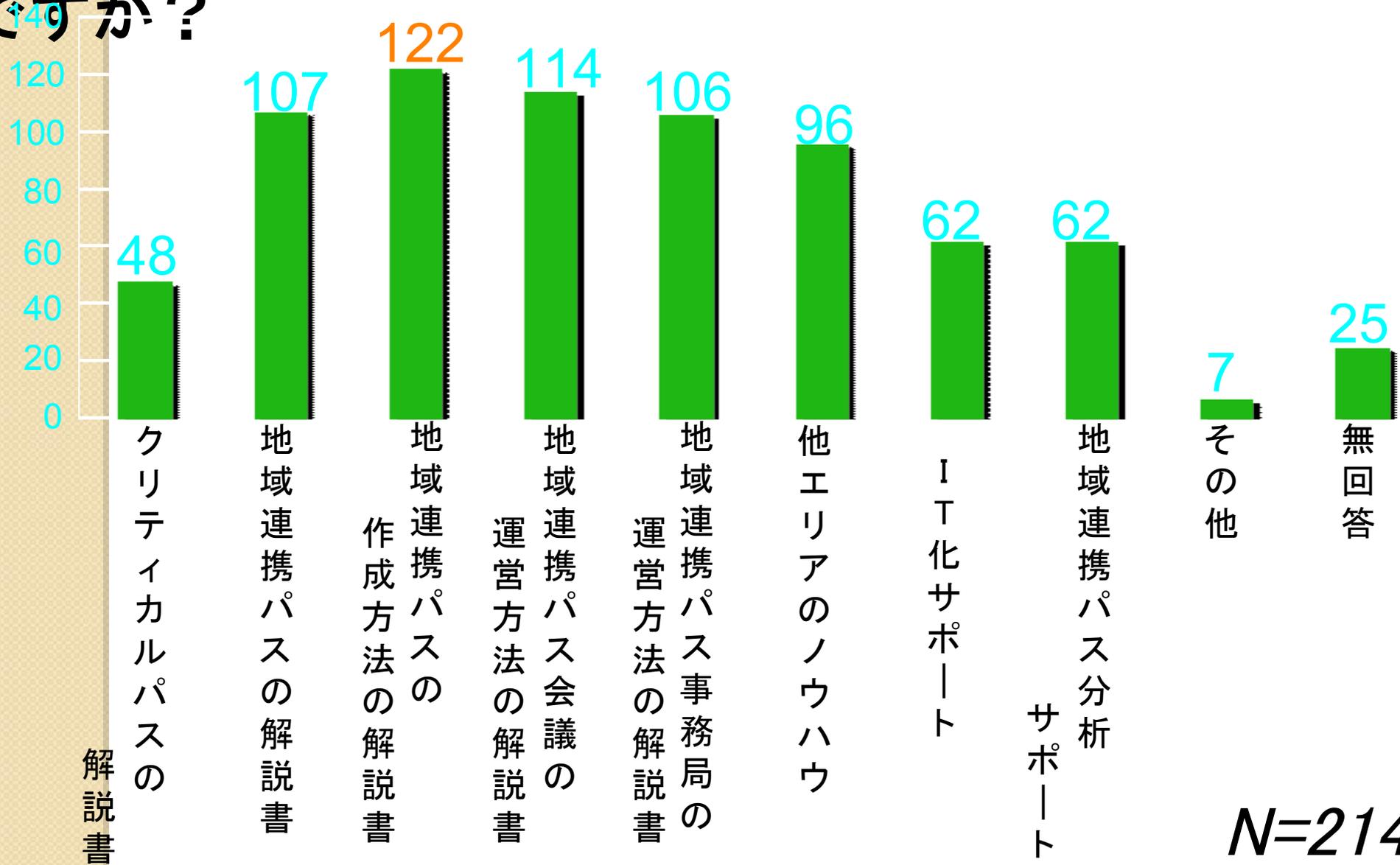
※前立腺がん3パス289人、膀胱がん1パス7人
子宮がん1パス0人、緩和パス1パス0人

連携パス適応患者数



Q10：がん連携パスを作成する上でどのようなサポートが必要ですか？

ですか？



N=214

がん診療における連携の

難しさは何だと思えますか？

(件)

120

100

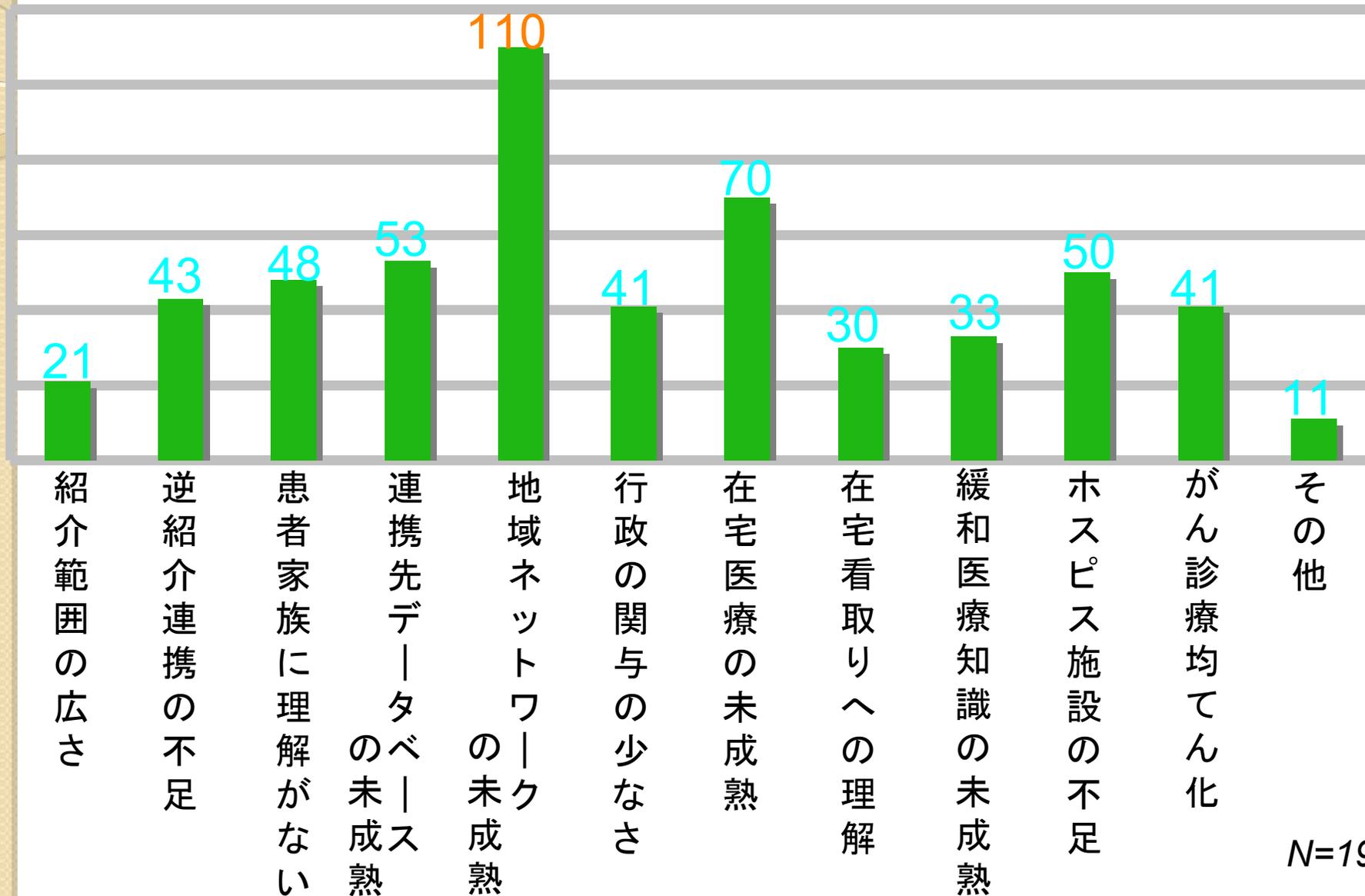
80

60

40

20

0



N=193

○ 連携パスのひな形はできたけれど . . .

求められる

地域ネットワークを支える

コーディネート機能

求められる連携コーディネート機能

- 継続診療に関わる連携を調整する機能が必要
 - 医療者間の連携を患者に説明する（医療者を支える機能）
 - 患者の情報を医療関係者に伝える
 - 相談役としていかなる場合も患者を支える

医療連携の意義と必要性を患者に納得
してもらえるか？

現場の医療者の負担を軽減できるか？

連携パスの成否を握る！

終末期の連携パス



在宅お看取りパスの作成
終末期の症状別薬剤パスの作成

新川医療連携懇話会

- 終末期医療における地域連携クリティカルパスの試み
 - 富山県新川（にいかわ）医療圏（魚津市、黒部市、入善町、朝日町）で、2005年より開業医が中心となって、在宅終末期医療や栄養管理などの検討のために「新川医療連携懇話会」を立ち上げた
 - ターミナルケアでは単独の医師による24時間管理体制では、医師の疲弊が激しいので、複数主治医制をとること
 - 在宅医師同士の連携ミスによる医療事故の防止と回避、病院の連携確保等のために



中川先生

終末期地域連携クリティカルパス

- 終末期連携パス

- 医師が記載する項目

- 患者状態（PS, 栄養状態、精神状態、身体所見）、疼痛管理、麻薬、NSAID、補液、検査、病状説明

- 訪問看護の項目

- 食事、排泄、清拭、入浴、精神面と

- 訪問介助者の記載の項目

- 緊急時の連絡網の手順

- かかりつけ医 → 副主治医 1 → 副主治医 2 → 連携病院サポート医

在宅療養実施計画書（医療機関用）

作成日 年 月 日

____様 歳 男・女

在宅介護人: _____ 続柄 _____

かかりつけ医(主治医) _____ TEL _____

副主治医1 _____ TEL _____

副主治医2 _____ TEL _____

連携病院 TEL _____

連携病院サポート医 _____

ケアマネージャー名 _____ TEL _____

訪問看護事業所名 _____ 担当 _____

TEL _____

訪問介護事業所名 _____ 担当 _____

TEL _____

アウトカム・方針

テキストで自由記載(テンプレート使用可)

テンプレート例
疼痛をできるだけ抑制する
褥瘡を悪化させない

医師コールの基準

テキストで自由記載(テンプレート使用可)

テンプレート例
呼びかけに応じない
呼吸をしていない



ケアマネージャー入力
氏名 _____



かかりつけ医が入力

在宅療養実施クリティカルパス (医療機関用)

在宅療養実施計画書（患者家族用）

作成日 年 月 日

____様 歳 男・女
在宅介護人： _____ 続柄 _____

連絡先 （下記の医師コールの基準にあてはまるようになった場合や、その他、状況が悪化し連絡が必要と思われる場合は下記連絡先の1に連絡し、連絡が取れない場合や、その先生の指示があれば、以後2、3、4の順に連絡してください。）

- 1 かかりつけ医(主治医) _____ TEL _____
- 2 副主治医1 _____ TEL _____
- 3 副主治医2 _____ TEL _____
- 4 ○○病院 TEL _____
- 連携病院サポート医 _____
- ケアマネージャー名 _____ TEL _____
- 訪問看護事業所名 _____ 担当 _____
TEL _____
- 訪問介護事業所名 _____ 担当 _____
TEL _____

アウトカム・方針

テキストで自由記載(テンプレート使用可)

テンプレート例
疼痛をできるだけ抑制する
褥瘡を悪化させない

医師コールの基準

テキストで自由記載(テンプレート使用可)

テンプレート例
呼びかけに応じない
呼吸をしていない

在宅療養実施クリティカルパス (患者家族用)

東東京緩和ケアネットワーク 緩和ケア連携パス作成部会

- 第1回作成部会（09年2月19日）
- 作成部会長 太田恵一郎（国際医療福祉大学三田病院）、顧問 武藤正樹
- 症状別パス作成
 - 疼痛管理、嘔気・嘔吐、不眠、呼吸苦など
- オピオイド導入パス
- お看取り連携パス



東東京緩和ケアネットワーク
連携パス作成部会

まとめと提言

- がん診療連携拠点病院は5大がんの地域連携クリティカルパスを2011年までに作成し運用しよう！
- 谷水班のがん地域連携クリティカルパスの4点セットを参考にしよう
- がん地域連携コーディネーターを養成しよう
- 切れ目のないがん地域連携を実現しよう！

一步進んだ医療連携実践 Q & A

- 編著 武藤 正樹／監修 東京都連携実務者協議会／編
- 版型 A5 発行日 2009年4月 ページ 200
- 単価 ¥2,940 在庫 予約受付中



好評発売中！
じほうベスト10

地域連携クリティカルパスと 疾病ケアマネジメン



- 日本疾病管理研究会
=監修／武藤正樹、
田城孝雄、森山美知
子、池田俊也=編集
ISBN：
978-4-8058-3149-6
在庫状況： 注文受付
中 判型： A4 体
裁： 並製 頁数：
226頁 発行日：
2009年04月20日

ご静聴ありがとうございました



本日の講演資料は武藤正樹のウェブサイトにて公開しております。ご覧ください。

武藤正樹

検索



クリック

ご質問お問い合わせは以下のメールアドレスで
gt2m-mtu@asahi-net.or.jp